日本国際ボランティアセンター Japan International Volunteer Center

1994年度年次報告書

Annual Report: Fiscal Year 1994





目次 CONTENTS

巻頭言	3
Outlook for 1995	
地図:JVCの活動地 ————————————————————————————————————	 4
World Map: JVC's project sites	
テーマ別活動紹介	 6
JVC's activities by theme	
プロジェクト地別1994年度活動報告と1995年度活動計画	
JVC's activities for fiscal 1994 and the plan for fiscal 1995	
by project site overseas	
海外活動 Overseas	
タイ Thailand —————	8
カンボジア Cambodia ———	10
ベトナム Vietnam —	12
ラオス Laos ————	
エチオピア Ethiopia	
中南米 Latin America ————————————————————————————————————	17
パレスチナ Palestine ——————	
南アフリカ South Africa	10
南アノリカ South Airica	20
国内活動 Japan	
東京 Tokyo ———————————————————————————————————	22
神奈川 Kanagawa	24
総会·執行委員会報告 ————————————————————————————————————	<u> </u>
Annual Meeting & Executive Committee Meetings	
1994年度JVC会計報告	 26
Income/Expenditure Report for Fiscal 1994 Balance Sheet for Fiscal 1994	
1995年度JVC 予算書 ———————————————————————————————————	00
1995年度JVC 予算者 Budget Estimate for Fiscal 1995	20
監査報告	20
監査報告 ————————————————————————————————————	29
JVCスタッフ/役員 JVC Staff	20
支援団体一覧 Supporting Organizations ————————————————————————————————————	31
JVC事務所 JVC Office ————————————————————————————————————	32

次代の地球に残したいもの

代表 熊岡路矢

1980年代前半、市場経済の浸透する以前のインドシナ(カンボジア、ラオス、ベトナム)では、街中でもお店は早く閉まり、置いてある商品の品数も少なく活気は今ひとつの状態であった。それでも農村の道の分岐点などでは小さな市場がにぎわい、子どもたちが素朴で美味しい砂糖キビや焼き鳥を売っていた。小さな手で、1円・2円のお釣りを大事に渡してくれる日焼けした売り子さんたち。

1990年前後から、旧ソ連・東欧圏の変革によりそれまでの後ろ楯を失ったインドシナは、政治外交的にも経済社会的にも大きく変わり始め、市場経済の急激な拡大および海外資本の流入と共に、生活や商売のテンポはどんどん早くなっていった。「多くの人がそろって貧しい社会」から「稼げる人から稼いでください」という貧富の格差を肯定する社会の到来である。ただし、単純に勤勉さが豊かさを保証するというよりは、強いものがより優位にたつという「弱肉強食」の厳しい世界である。

JVCは70年代後半以降の「東西対立」、難民流出の直中に誕生し、アジア・アフリカ・中南米のいくつかの国々で、緊急から復興、復興から農村開発・地域開発へ幅を広げてきた。「ソ連・東欧=社会主義ブロック」の解体は、あらためて大量消費国の私たちが環境と南の人々に大きな負担を掛けながら暮らしている「南北対立」の構造を浮かび上がらせた。空間的のみならず、次の世代のための資源までむさぼり尽くしかねないゆがんだ世界でもある。

このような現実を正していくという重い課題を目の前にして、 圧倒される思いもあるが、アジア・アフリカ・世界の普通の人々 の心と手の温かさを実感しながら、協力活動の継続と私たち自身 の生活を見直すことの双方に向けて行動したい。NGO・市民団体 の力の源泉である、「ひと」とネットワークを活かして、自分も 変わり世界も変わる可能性を信じたい。

What we would like to leave on the earth for the next generation.

President Michiya Kumaoka

In the first part of the 1980's, areas in Indochina, such as Cambodia, Laos and Vietnam, were not so lively because shops in towns closed early and few goods were sold. In that period, however, on the junction of streets in farm villages were small markets crowded with people and children who sold simple and tasty sugarcane and roast chicken. There were sun-burnt small enterprising children who were handing small change to customers carefully.

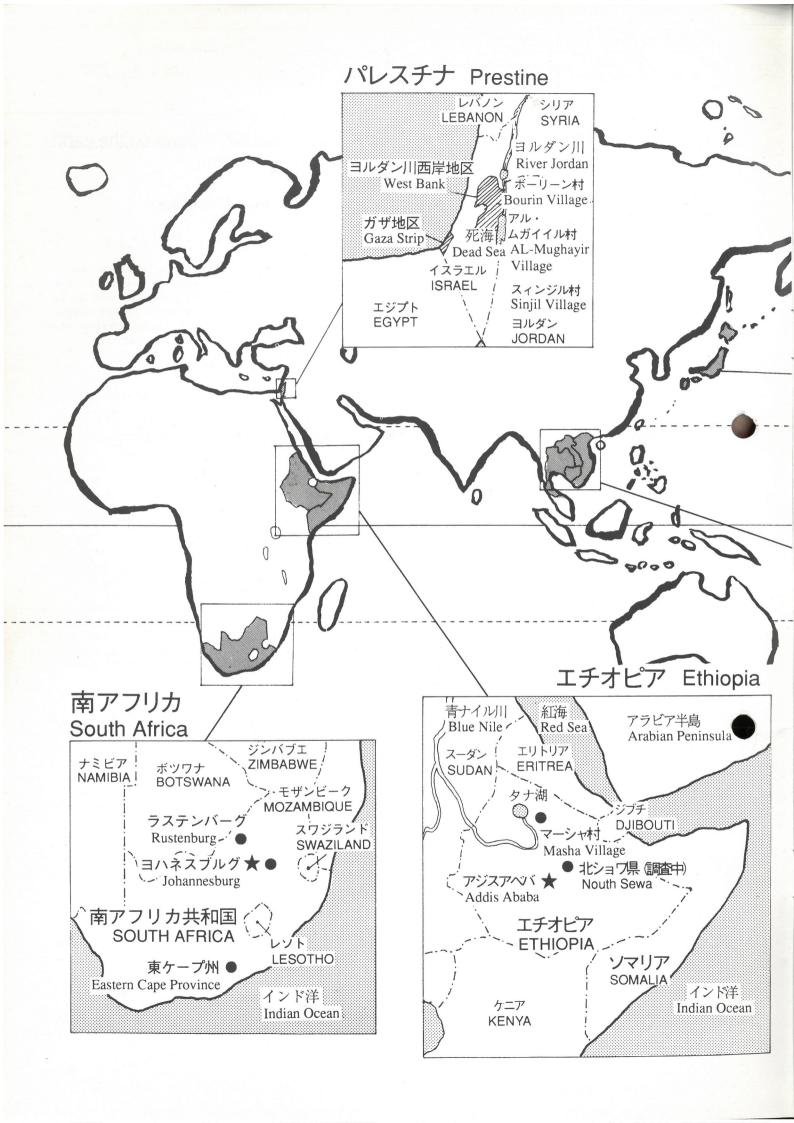
Around 1990, Indochina having lost the support of the former USSR and East Europian countries, started to change dramatically in economic and diplomatic terms. With the rapid expansion of the market economy and the inflow of foreign investment, the pace of lifestyle and commerce intensified. The time had arrived for society to accept the differences of the poor and the rich. Also, the society where those who are able to make money get the lion's share of the benefits. It has no longer so simple that diligence will guarantee wealth, but become a tough society that benefits accrue to the socially advantaged and the weak are victims of the strong.

JVC was started in 1980 during the chaotic period of confrontation betwen the East and West when many refugees were generated because of the war.

JVC expanded its activities from emergency relief to rehabilitation and from rehabilitation to development of farm villages and communities in Asian, African and South and Central American countries. The collapse of the socialist countries of the former USSR and Eastern Europe creating a clear "North and South" structure.

That is to say we (people living in mass-consumption countries) enjoy our lifestyles at the expense of the people and environment in the south. It is the unjust world that we exploit the resources for next generation.

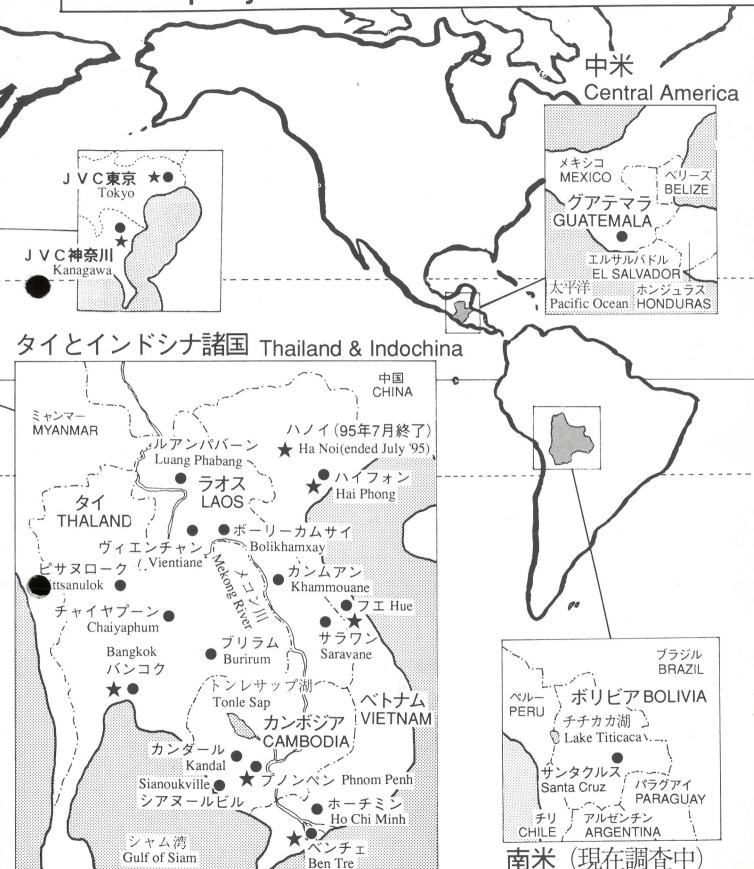
I sometimes think that confronting the difficult subject of reforming such unfairness, is an overwhelming problem. However, feeling the warm hands and hearts of people in Asia, Africa and all over the world, I would like to commit myself to the continuation of cooperative activity, and the rethinking of our own lifestyles as well. I would like to believe the possibility that our activity will be vitalized by the "people-network" which is the driving force of NGOs and local groups, and also that the world and myself will change.



JVCの活動地 '94〜'95 JVC's project sites '94〜'95

- ★:現地事務所 Office
- ●:主な活動地 Project Sites

South America



JVC活動 '94 JVC ACTIVITIES '94

●女性

貧困、環境、人権などの問題の底辺にいるのが女性。彼女たちは、いち早く現状を認識する勇気を持ち、できる範囲から問題解決に取り組んでいます。

ベトナム、ラオス、カンボジア、エチオピア、南アフリカ

Women's Issues

Women bear the burden of problems such as poverty environment and human rights. These women have the courage to recognize their problems and attempt to solve them as much as much as they can.

VIETNAM, LAOS, CAMBODIA, ETHIOPIA, SOUTH AFRICA

●農村開発

多くの開発援助は人口が密集する都市に集中します。一方、貨幣経済の浸透が農村の相互扶助社会を壊し、都市への人口流出を招いています。

東京やバンコクなどの都市型社会ではない、新しい社会づくりにチャレンジしています。

タイ、ラオス、カンボジア、ベトナム、エチオピア、南アフリカ、パレスチナ

Rural Development

Much development assistance tends to concentrate in urban areas with large populations. Meanwhile, a market-oriented economy destoroys the traditional dcommunal support system in villeges and results in further urbanization. JVC seeks to create a new society, different from urban societies. THAILAND, LAOS, CAMBODIA, VIETNAM, ETHIOPIA, SOUTH AFRICA, PALESTINE

●人権

環境、貧困などの問題以前に「ひと」として生きる権利を脅かされている人々がいます。政治の安定や人種差別撤廃という制度整備だけでなく抑圧されている人々が立ち上がり、お互いを尊重する社会づくりを JVCでは支援しています。

グアテマラ、南アフリカ

Human Rights

There are people who are deprived of their right to live as 'humans', in addition to the environmetal and economic problems. JVC supports activities which aim to institution building for political stability, abolishing racial discrimination, etc.

GUATEMARA, SOUTH AFRICA

部語

第三世界では、環境問題が人々の生活を脅かしています。それは、人々の生活が工業国日本よりも自然と密着しているからです。工業化がもたらす富よりも、自然を維持する形での開発・共存を第三世界の人々は求めています。

タイ、ラオス、エチオピア、パレスチナ、ベトナム、カンボジア

Environment

The environmental degradations threatens people's lives in the Third World countries where their lives are more closely intertwined with nature than in industrialized countries. They prefer preserving the environment and harmonious life with nature rather than whalth crated through industrialization.

THAILAND, LAOS, ETHIOPIA, PALESTINE, VIETNAM, CAMBODIA

●文化保存

豊かさをお金で計るのが資本主義。長い年月をかける住民の手で守られてきた伝統文化は、お金ではかれない 豊かさと誇りを与えてくれます。

ラオス

Cultural Preservation

In capitalist countries, money is the yardstick of wealth. However, the wealth and pride in traditional clture nurtured by people for years cannot be measured in money. LAOS

●都市スラム問題

経済成長にばく進する都市には、搾取されやすい不公平な歪みが発生します。そしてこの歪みを被るのは、目途が立たず農業を捨てた元農民、教育や職業訓練の機会を持たない未熟練者、さらに内戦の被害者である寡婦や、孤児など。個人が自立していける支援を行います。

南アフリカ、タイ、ベトナム、カンボジア

Slums

Urban centers, where rapid economic growth occurs ,tend to create problems of distortion, inequity and exploitation. JVC supports the self-establishment of farmers who milgrated to big cities without the chance of education or technical training ,widows, or phans, and victims of internal wars.

SOUTH AFRICA, THAILAND, VIETNAM, CAMBODIA

●職業訓練

市場経済は、企業や限られた特定の人々により多くの富をもたらします。急速に変化している競争社会で個人の力をつけることが、より平等な機会をつくります。

カンボジア、ベトナム、南アフリカ

Technical Training

The market economy tends to bring wealth to large scale enterpraises and a limited group of individuals. In a rapidly changing competitive society, empowering individuals leads to the creation of equal opportunities.

CAMBODIA, VIETNAM, SOUTH AFRICA

●教育

厳しい環境で生活を強いられている人々にとって、子供たちの教育は与えられた逆境を自力で克服する第一歩です。

タイ、カンボジア、南アフリカ、ベトナム

Education

For those who live in a harsh environment, education for their children is the first step towards overcoming adversity by themselves.

THAILAND, CAMBODIA, SOUTH AFRICA, VIETNAM

●帰還難民

内戦を逃れ出た人々、言論や信仰の自由を奪われ祖国を去った人々が、再度祖国で生活を営むための支援活動を 国際機関と共同で担います。

ベトナム、ラオス、カンボジア(1994年終了)、南アフリカ

Repatriation

Together with international organizations, JVC suppots those who have left their home countries-due to civil wars ,and the lack of the right of freedom of speech/religion to resettle in their countries.

VIETNAM, LAOS, CAMBODIA (Ended 1994), SOUTH AFRICA

●緊急救援

戦争や飢餓などの個人では抵抗できない環境に多くの人々が苦しめられているとき、食料や医療などの緊急援助が必要です。

阪神淡路の震災

Emergency Relief

Emergency assistance of food and medical services is necessary in time of war or famine, when many people suffer and cannot cope with the situation through individual efforts.

Hanshin earthquake Japan



1994年、タイでは貧しい農民のためとうたった土地改革や、政治の地方分権化をめぐって、対象としている人たちとはおよそ関係のない中央で、政党が激しく勢力を争った年であった。1995年5月、政党争いと土地払い下げにまつわる汚職で、チュアン政権はついに解散に追い込まれた。

1994年はまた、かつてはもっとも従順と言われた東北部の農民たちが、政府の農業政策の失敗による農民の借金の肩代わりや、ダム建設による立ち退きに対する補償を求めて立ち上がった年でもあった。

■1994年度活動報告

立ち上がる農民

●農村開発:チャイヤプーン・ペチャブーン・ピサヌローク・ ブリラム

生態系をいためない農業に従事する人は少しずつ増えている。山岳地帯では一種類の換金作物しか植えていなかった人たちが、アグロフォレストリーの方法で、果樹を植え、陸稲を植えている。また、水田地帯では不耕起による稲作が広まりつつある。しかし、1994年はピサヌロークでは洪水、ブリラムでは干ばつに悩まされた。

農民組織である『自然保護農民委員会』では、貯蓄グループ、各種銀行などほとんどの活動を農民だけで運営している。JVCは運営や会計に関してのトレーニングやスタディーツアーを行うなど、農民組織の強化に努めてきた。

生産者組織では、無農薬の野菜や米、味噌、しょうゆなどを販売しているが、いまだに順調に利益をあげるには至っていない。 野菜に関しては、雨季の栽培が最も難しい時期、自然ではないが ビニールシートの屋根を作ることで、激しい雨を防ぐ方法を取ら ざるを得なかった。

無農薬米の精米用にと、大手新聞社マチィチョムから精米機の 寄付を受けた。しかし、小型で1日に160キロしか精米できない。 いずれもっと大型の精米機を入れないと、増え続ける無農薬米栽 培者に応えることはできないであろう。

今年もスタディーツアーとしてたくさんの地域を訪問し、また 訪問者を受け入れた。受け入れはとくにNGOに率いられたタイの 農民のグループが目立った。カナダのNGO、CECIの紹介でネパ ールのNGOを受け入れ、タイからも3人のスタッフが4週間ネパ ールへ行き、5つのNGOの現場を訪問した。

●スラム改善:クロントイ

これまでの数年間、JVCのスタッフはスラムの少年たちと日本人だけで、残念ながらコーディネーターに欠けていた。しかし、1994年度からスラム出身のトゥアンが参加、いろいろな面に良い影響がでている。対象者が青少年に片寄りがちであったのが、各層に広がったことも良い影響のひとつである。

恒例になっているキャンプについては、子供たちだけではなく、 青少年のキャンプもはじめた。また、1-2-3区にJVCでははじめて の共同購入店を開くこともできた。

■1995年度活動計画

ますます自主性を持つ農民

●農村開発:チャイヤプーン・ペチャブーン・ピサヌローク・ ブリラム

今年平野部では、さらにたくさんの農民が不耕起自然農業による 稲作をしたいと表明している。そのため、雨季前にブリラムとピ サヌロークで不耕起栽培のための大きなトレーニングを開催する。

昨年度ピサヌロークのセンターが完成し、チャイヤプーン、ブリラムと合わせセンターは3ヵ所になった。センターはトレーニング場として、農民の集会場として機能するほか、さらにどう使うのか、それぞれの地域に駐在しているスタッフの、農民との関係づくりの力量にかかっている。ピサヌロークでは、農民のひとりがセンターを使って、他の農民たちに養蜂を広めようとしている。

6月にはネグロスから農民組織のリーダーたちがやってくる。 農業、農民組織、生産者組合、流通のことで、いろいろ話し合え そうだ。今後、農民組織同士の良い交換を続けていく予定。

●スラム開発:クロントイ

今年も共同購入店開設へのプロセスや子供のキャンプ、青少年のキャンプを通じてスラム内の人々のネットワークを強固なものにしようとしている。クロントイだけではなく、現在問題になっている橋の下に住む人たちにも支援をはじめる。



1994 was a year where political parties in Thailand fought each other intensively, on a central level far from the farmers, in the issue of land reform for poor farmers and the decentralization of power. In May, 1995, the Chuan administration was dissolved because of corruption regarding party competition and land disposal. 1994 was also the year that farmers, in the northeast district, who had been thought to be the most innocent, started to oppose the government. They began asking the government to shoulder farmers' debts generated by the failure of its agricultural policy, and also for compensation for farmers' forced to relocate due to dam construction.



Fiscal 1994 activities Farmers Ready for Action <Rural Development>

The number of farmers engaging in ecological agriculture has been increasing gradually. People in mountainous areas, who had been growing only one kind of cash crop, are currently growing fruits and upland rice using agro-forestry method. In paddy field areas, rice cultivation by non-tilled cropping was becoming popular. But this year, Pitsanlok suffered from flooding and Buriram from drought. A people's organization called "People's Committee of Nature Conservation" manages savings cooperatives and revolving funds. JVC made efforts to strengthen the organization by planning training and study tours on accounting and management.

A producer's association was selling chemical-free vegetables, rice, miso and soya sause, but it was not profitable yet. Regarding vegetables, during the rainy season when cultivation is most difficult, it was necessary to cover vegetables with plastic sheets to prevent damage from heavy rain.

The association was given a small rice mill from the major newspaper company Matychom. But it was small enough to mill only 160 kg. per a day. It seemed that we would need bigger rice mill, because the farmers who glow chemical-free rice are increasing in number.

We visited various places on study tours, and invited many visitors in this year. Among the visitors, the majority were Thai farmers. We had visitors for 3 weeks from Nepali NGOs with an introduction from CECI, a Canadian NGO. Then, a Canadian NGO called CECI introduced Nepali NGO's to three staff of JVC Thailand went to Nepal for 4 weeks and visited 5 NGOs.

Urban Community Developmen > Klong-Toey

In recent years, we did not have the coordinator for a long time.

However, from 1994, Tuang joined our activity as a coordinator and he made beneficial changes on of the project. Thanks to his effort, people from a wide age range have started to join the project, in contrast to the past, when rather young people had been involved.

Regarding the camp which was held regularly, a new camp for young people was organized in addition to the children's camp. Also, in 1-2-3 areas of Klong Toey,JVC was able to set up a new cooperative shop for the first time.

■1995 Plans

Farmers are becoming more assertive < Rural Development >

Chaiyaphum, Petchaboon, Pitsanlok, Buriram:

This year, more farmers are announcing that they wish to practise rice cultivation by non-tilled cropping way in the plains. Therefore, we will hold a big training course for non-tilled cropping in Buriram and Pitsanlok before the rainy season.

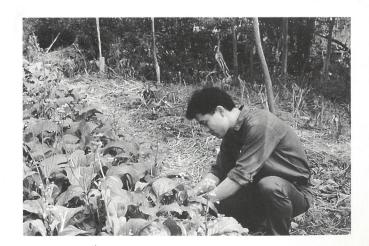
Last year, construction of the center in Pitsanlok was completed and there are presently 3 training centers. Centers are currently used for trainings and meetings for farmers. Whether or not the other functions of these centers will be exploited relies on the ability of staff to have good communication with farmers. In Pitsanlok, a farmer used the center to spread apiculture.

In June 1995, leaders of a people's organization will come from Negros, Philippines.

We plan to discuss agriculture, people's organizations, producer's association, and market. We would like to maintain good contact among the people's organizations.

<Urban Community Development> Klomg-Toey :

We would like to strengthen the network of people living in the slums through the establishment of cooperative shops, children's camps and youth camps. Besides Klong-Toey, we will begin assistance for people living under the bridge who are currently facing many problems.



カンボジア

新政府発足後1年を経過したカンボジア国内は、援助や海外投資による開発が急激に進み、森林伐採など環境問題や立ち退きなどの都市問題を生んでいる。また政府軍対ポル・ポト派の局地的内戦は、地雷の被害や国内避難民を生み、平和への歩みを遅らせている。

そんな中、海外及び現地NGOによる人々の安定した暮らしを目指した地道な活動が、 環境問題に配慮した共有林の奨励や、国連人権センターの存続を見直す政府の姿勢に反 映され始めている。

■1994年度活動報告

平和への地道な歩み

●サンタピエップ技術学校:プノンペン市

公共事業運輸省と協力し、自動車整備技術者養成に必要な教材・施設の充実と指導員のレベルアップを図った。学校運営を資金面で支えるワークショップの経営と、技術の向上を目指した94年度の活動が、校舎の増築、100ページの「溶接」の教科書の追加など訓練教材の補充や、ワークショップ運営で必要な経費の7割を生み出すようになった。また、過去3回に渡る卒業生の就職率が75%を超えた。

●ミタピエップ技術学校:シアヌークビル市

94年1月よりILOと協力して溶接科の5カ月コースを2回行い、南部の県出身者を中心に約70名の訓練を行った。94年度は、自動車整備実習場等の整備や機材、教材の購入を行い、9月より36名を対象に、2年コースの自動車整備科を開始した。シアヌークビル市内も首都プノンペン市同様自動車や建設等が増え、仕事の需要が増えつつある。昨年度同様、広島県の協力でプノンペン・シアヌークビル両校から2名の指導者が、9カ月の日本での技術研修を受けた。

●持続的農業と農村開発/SARD:

カンダール州オン・スノール郡(旧プノンペン郡)

91年に始まった農村開発プロジェクトを見直し、94年度半ばからは「持続的農業と農村開発」に移行。今までより活動内容が広がった。農村開発の対象地域はこれまで通りだが、普及員を対象とした研修や、今まで関わってきた村を含め21ヶ村の調査、井戸掘り活動など共同体活動の運営支援も行ってきた。また、広くカンボジア全体やタイなど周辺国も含めた持続的農業及び森林保全のためのネットワークづくりや研修及び実践、自然資源の持続的活用のためのリストづくりを目的に、資料を広く活用できるよう資料センターを設置した。また、現地で農薬キャンペーンを他NGOと協力して行った。

●第四社会福祉センター:プノンペン市

センター内の設備改善、入所者の自主活動である家庭菜園・種苗づくりの支援や、15才以下の子供達の課外授業等の運営、環境衛生指導を実施した。センター職員が運営する成人対象の識字教室や、裁縫指導も支援した。また、センターを出た再定住者のフォローアップや、同分野で活動する団体との情報交換を行った。これらの活動は、JVCII形と協力して実施した。

■1995年度活動計画

多様化と充実

●サンタピエップ技術学校:プノンペン市

本年度で8年目を迎えた当事業は、9月に新たな溶接科と電装科を開始するため、設備工事、機材の補充を行っていく。また、97年度からカンボジア人主体の最終的な独立体制に移すことを目指し、ワークショップと教務の責任者からなる運営委員会によって、完全運営の基礎を固めていく。同時に指導員によるカリキュラムの改訂や、教材作成により指導内容を改善する。

●ミタピエップ技術学校:シアヌークビル市

学習内容をより充実するために、溶接科を5カ月コースから1年コースに変更する。自動車も新しい1年生が入る。また、全国からの生徒が来るため、寮の増築、設備、機材、教材の充実を行う。自動車整備科については、2学年で約70名、溶接科は1学年約25名の受け入れを予定している。また、プノンペンの技術学校同様、カンボジア南部の訓練・研修センターとしての機能を高め、他の訓練センターや技術学校の生徒の研修にも利用できるような状態にもっていく。

●持続的農業と農村開発:

カンダール州オン・スノール郡(旧プノンペン郡)

村人が池・森など村の資源を守りつつ、食糧も得られるといった 生活基盤の安定がはかれるよう、農村開発活動対象の12ケ村で井 戸掘りや雨水利用、衛生教育など安全な水供給活動の普及と家庭 菜園、コメ銀行運営や小規模収入向上事業、公共施設修復作業の 支援を行う。

また、広く農業に携わる政府職員や普及員、NGOのカンボジア人スタッフや学生、村の指導者を対象に、持続的農業・森林農業の研修及び自然資源との共有(NRM)を普及するためのワークショップを開催、周辺国とのネットワーク作りも行う。同時に、援助や法整備に関する政策への提言や、村人による自主活動委員会設立への働きかけを進める。様々な研修活動の教材・資料や記録は資料センターが収集・管理をする。

●第四社会福祉センター:プノンペン市

センター入所者の一部自給と、現金収入をめざした果樹・野菜栽培や縫製作業の支援の他、スタッフや福祉局職員対象の研修参加の機会の提供、センターを出てコー島など新たな定住地に移った人々への自立支援や児童福祉・都市問題を扱う団体との情報交換、政策提言活動を、JVC山形と共同で実施していく。

More than one year has passed since the new royal government was established in Cambodia. Reconstruction of the country has been going on with bi & multi-lateral aid and investments from abroad based on the government's firm belief in the free-market economy. This has boosted a few industries like construction and entertainment while problems of AIDS/HIV, deforestation, street people, etc., have been aggravated. Rural development is far slower compared with that in the city, thus making the gap between rural and urban sectors bigger and bigger. Continual fights between the government and Khmer Rouge has created more displaced persons and more victims of landmines.

In circumstances such as the above, the role of NGOs has changed from being the main channel of international aid to the monitor of overall reconstruction and partner of grass-roots people. Their activities to lobby the Cambodian government and donor countries for people-centered development and sustainable livelihood bear critical importance for the Cambodian future. However, lobbying activities cannot be convincing, if not supported by first-hand experiences with grass-roots people of implementing their own projects in pursuit of the initiative and independence of the Cambodian people.



Fiscal 1994 Activities A firm step for peace <TECHNICAL SCHOOLS>

Santapheap Technical School(Phnohm Penh)

JVC provided equipment and materials for improving the facilities and for the level up of teachers' skill, expanded class rooms, as well as published an aditional 100 page welding textbook. Management training for the Workshop staff was given, which resulted in generating 70% of expenditures internally. The employment ratio for guraduates exceeded over 75%.

We also accepted trainees from other organizations. Meathapheap Technical School(Sihanoukville)

This school opened in January, 1994, in cooperation with ILO and the first 5- month welding course started in February. After graduation 1 graduate has entered the automobile technical course which newly started at the same school in September.

The second 5 - month welding course started at the end of August.

<SARD>

(Sustainable Agriculture & Rural Development)

In early 1994, a SA specialist joined this program as a staff and our RD activities were reorganized and expanded as SARD program. The different activities taken up so far under this program are below briefly.

NATURAL RESOURCE MANAGEMENT

Conduct surveys, training and policy dialogue on protection, regeneration and sustainable use of natural resources shared by different communities;

SUSTAINABLE AGRICULTURE

Training of trainers, Publication, and Trainers' center.

RURAL DEVELOPMENT

In two communes of An Snoul Kandal of Province, JVC supports rural communities to take up activities oriented to basic needs and self employment based on local resources; water development, rice bank, micro- enterprise, etc.,through small self managed groups.

< SOCIAL WELFARE CENTER No. 4

(Phnom Penh/ Joint project with JVC Yamagata) >

JVC assisted with programs of vegetable growing, fruit tree planting, nutrition improvement, health & sanitation, informal education, sewing training, literacy and child care, by providing technical advice, tools and materials. Facility improvement, training for center staff was also implemented.

Our assistance was extended to some residents in the Phnom Penh Municipality regarded as homeless and forced to move to Oh KO under their relocation program for street people.

We also participated in advocacy work against child abuse together with other NGOs and UN bodies.

Fiscal 1995 Plans

Diversity and improvement

<TECHNICAL SCHOOLS>

Santapheap technical school: two new courses of electrical work and welding will be started in September, 1995. Improving the administrative system, promoting services and sales management of the attached workshop will be performed so that the school can be come self-reliant by 1997. Installation of necessary equipment & development of textbooks are planned.

Meathapheap Technical School

The second 2-year automobile technical course, 1-year welding course and 1-year small engine course will be started in September, 1995. Equipment, furniture and teaching materials for these courses are being prepared.

The attached workshop is expected to be in operation at the beginning of 1996. JVC will try to make it self-reliant by getting work from the outside.

<SARD>

SUSTAINABLE AGRICULTURE

JVC will continue organizing workshops and training for trainers, farmers and home gardeners, surveys, trainings and policy dialogue on protection, regeneration and sustainable use of natural resources(NRM).

TRC will increase publications, start a newsletter to strengthen information exchange among SARD related organizations and persons, and develop data bases on plants in 1995.

RURAL DEVELOPMENT: Towards a sustainable livelihood for villagers, JVC will continue to expand its ongoing activities, such as well-digging, community pond, ricebanks and home garden training. In 1995, water quality checks and hygiene education will be planned to provide safer water supplies.

SOCIAL WELFARE CENTER No4

In addition to programs continued from the previous year, a food production program including raising fish in a rice plantation will start for self-supply and income generation. The construction of rainwater catching facilities and improvement of the water distribution system are also planned.

We will continue to follow-up with those who have moved to Koh(island) Ko and will also participate in the advocacy network.

ベトナム

ドイモイ政策は国土の全域に浸透し、急速な経済発展による様々な正負の影響が出始めている。200万の海外在住ベトナム人やアジア各国からの投資が南部に集中しており、合弁企業などによって都市の失業は解消される傾向にあるが、一面農村の疲弊が進んでいる。中部では美しい海岸線を利用したリゾート開発、ラオス・タイを横断するアジアハイウェーの計画が、住民に十分な情報が与えられないまま進行している。北部ハイフォンにおいても、国際的港湾都市としてのインフラ整備計画が目白押し。 誰しも郷愁を感じる農村の国にとって、日本は最大の援助国となった。

■1994年度活動報告

めまぐるしい発展の陰で

●職業訓練・産業開発< ハイフォン市>

バイク修理 7・8 期生約80名が卒業し、9 期生が入学。日産労連の協力で先生等のレベルアップ研修を行った。分校作業場をトゥイグエン郡(7 月稼働)とクアントアン地区(3 月完成)に建設した。訓練所(TPC)本体の独立採算も確立し、市労働局へ運営を委譲。これで足掛け5年にわたった、UNHCRとの共同によるハイフォン市での帰還民職業訓練プロジェクトは、全て完了した。<ベンチェ省> UNHCRとの共同プロジェクトの3年目。ヨンチョム郡センターでは、電気科を充実し、機械科は実習設備を整え、縫製科を新設。生徒総数は、60名。バーチ・タンフー両センターは10月、ビンダイセンターは12月に開設した。いずれも漁労機器などの機械科を中心にし、バーチ・タンフー両センターには縫製・電気科も併設、地域に適正な技術のニーズに対応している。

●地域開発/生活改善<ホーチミン市>

3農村でクレジットの受益者は174戸に達し、「乳幼児と母親の栄養」「家畜飼育技術」など母親教室を3回開催、のべ130人が参加した。郊外4村での識字教室/小学校図書室増設は、8月に全て完了した。スラムではクレジット基金の地元移管に向け住民への研修を重点的に実施した。8区の道路舗装は5月に完成、11区は許可申請の手続きが遅れ、上水・道路舗装の工事は大幅に遅れた。
<ベンチェ省> タンフー郡とモカイ郡で小学校10校を対象に校舎・教材整備・図書室を整備した。4回の母親教室を実施、のべ150組の親子が参加した。

●農村開発/環境保全<フェ省>

白砂では4社(4,290家族)、少数民族の住む山岳地域では7社(1,782家族)と活動を実施している。それぞれの村作り委員会と村の問題、および解決策を検討し、複合農業推進のための家畜銀行(畜産・養魚)、果樹栽培、植林用苗木作り、共同井戸(27ケ)、飲料水用のための雨水貯水タンク(79ケ)、農道の整備等実施した。プロジェクト運営とアグロフォレストリーの研修のために、フィリピンへ12名のベトナム人関係者を派遣した。

<ハイフォン市> 村のリーダー育成のために、農村開発手法の 研修を実施した。主体的に生活改善を行っているハノイ郊外のメ ーソー社に農民スタディツアーを実施した。農業の多様化のため のクレジットを60戸に供与した。

●青少年育成<ハイフォン市>

社会的弱者であり、都市化の影響を受け易い青少年を対象とする 調査を、自治労の協力の下に7月から開始。同時に、市郊外農村 部での農業高校支援や農業教育といった活動のための調査も実施 した。

■1995年度活動計画

運営の現地移行をめざして

●職業訓練/産業開発<ベンチェ省>

UNHCRとの契約の最終年度であるが、JVCは、地域の適正技術への需要を判断した結果、帰還民対象の一時的な施設でなく、恒久的な技術サービス施設として、運営を現地に委譲していく。もう1年は継続していきたいが、UNHCRの支援のなくなる来年度は資金的に難しくなるので、今年度内にできるだけ運営を委譲する。新設はベンチェ市内に設立するコンピュータ・会計などのビジネストレーニングセンターだけにとどめ、各センターの自立経営研修等に力を集中する。

●地域開発/生活改善<ホーチミン市>

3農村において、クレジット基金の運営を中心とした村の生活改善運動を、村人の力だけで発展させられるように、村人・スタッフの研修に重点をおく。12月までに、村のクレジット管理組合へ基金管理を委譲する。スラムでは上下水道を完成させ、全ての事業を現地に委譲する。

<ベンチェ省> モカイ郡などの農村で、小学校を拠点とした地域開発活動を実施する。

●農村開発/環境保全:フエ省

村作り委員会が、自分たちの農村を改善していくため、十分機能するように農村開発の計画・評価の研修、記録の充実を図る。農業の多様化のため、村の家畜銀行も引き続き実施する。山岳地では、斜面での持続的な農業への取り組みとして、アグロフォレストリーの試みと村内での植林用苗木生産を行う。あひる・水稲同時作の試みは、多くの農民が興味を示し、今年度はフエ省平野部と白砂地の15カ所に活動地を広げ実施する。各社の草の根獣医の活動を充実させるために、JVCの資金と各獣医からの出資分を合わせ、村内に薬局を開設する。また、水田のための水利システムや農道の整備、託児所の新築も行う。

●地域開発/青少年育成<ハイフォン市>

カウンターパートの児童保護委員会および人民委員会と、レチャン区ニエムギア町スラム地域に建設中の「子どもの家」開所への準備を進め、7月には本格的活動を開始する。孤児やストリートチルドレンなどに住居を提供し、地域に開かれた識字補習クラスや職業訓練を行う。農村開発活動では、農業高校への支援、農村リーダーの育成、各種銀行活動を引き続き継続する。さらに今後の活動のために、農村における大規模開発の影響を調査する(昨年度の農村開発と青少年育成を発展的に統合)。これらの活動を自治労と共同で行う。

Background/ The Doi Moi programme has let to wide spread changes throughout Viet Nam, and the effects of rapid economic growth have left both positive and negative impacts. Investment from the approximately 2 million overseas Vietnamese and from other overseas investors is focusing on the gradually resolved through the establishment of joint venture companies.

However, negative to the rural areas are continuing. In the Central Region, resort development utilising the beautiful coastline and a plan for a highway crossing Laos and Thailand is proceeding without sufficient participation of the local people. In Haiphong, many infrastructure projects are ongoing, including developing Haiphong into an international port. Japan has become the biggest donor to Vietnam since 1993.



Fiscal 1994 Activities

Rapid economic growth have left negative impact Vocational Training / Industrial Development

< Hai Phong City > Approximately 80 students received training from Training & Practice Centre (TPC), such as in motorcycle repairment. TPC also organised lectures for instructors and technicians to improve their skill levels. 2 new workshops were set up in the suburbs. TPC became self-supporting, and management of TPC was handed over to city's labour office. After 5 years JVC, with the co-operation of UNHCR, completely terminated.
< Ben Tre Province > This is the 2nd year of the project

<Ben Tre Province> This is the 2nd year of the project with the co-operation of UNHCR. Giong Trom Training Centre has completed facilities for Electronics Technical, Mechanical Engineering, and newly Settled Tailoring training.

Training Centres in Ba Tri District and Thanh Phu District have been available for Fishery Engineering Training since Oct. '94, and also in Binh Dai District since Dec. '94. Electronics and Tailring Training is also available in Ba Tri

and Thanh Phu centres for their communities.

Community Development / Livelihood Improvement

<Ho Chi Minh City>In 3 villages of the suburb area, 174 families participated in credit & savings activities. 3 classes about "Nutrition" and "Animal husbandry" were organised for 130 participants. Support for primary schools and literacy classes in 4 villages was completed in Aug. Footpath construction in District 8 was completed with people's participation in May, but construction in District II was delayed because of administrative procedures.

<Ben Tre Province>10 primary schools were supported through classroom renovation provision of teaching equipment, and a supply of books to set up community reading rooms. Training classes were organised 4 times with the participation of 150 pairs of mothers and children.

Rural Development / Environment Conservation

<Hue Province>4 communes (4,290 families) in the white sandy area and 7 communes (1782 families) in the mountainous area have implemented their rural development activities. Livestock Banks, gardening, seeding production, village road repair, construction of common well (27) and rainwater tanks (79) were carried out based on their needs.

JVC and each village development committee organised monthly meetings where the village discussed their problems and its solutions. JVC sent 12 people to IIRR in Philippines to study Development Management and agroforestry.

< Hai Phong City > JVC organized various training activities such as project design training for the leaders of the communes. A study tour was held to visit the Me So commune in the suburbs of Hanoi, where villagers are implementing various activities through their own initiative to improve their living condition. JVC provided credit to 60 families to encourage them to implement agriculture diversification.

Promote Youth

<Hai Phong city > JVC has started a survey on the condition of children and youth's who are influenced by the negative impacts of modernisation and urbanisation since Jul. 94, and also another feasibility survey in the rural area for agriculture education and assistance to high school.

Fiscal 1995 Plans

Target for managing by local government Vocational Training / Industrial Development

<Ben Tre Province>The project has been supported by UNHCR since '93. 1995 is the last year of support. JVC plans that the locations of the Vocational Training Centre should be "Technical Supportment Centres" for development in rural areas as self-support from now on. Activities of JVC in 1995; settlement of Ben Tre Town Business Training Centre Computing, Management, Electronics and other technical training. Also settlement of each centres in rural areas to Technical support including self-support action.

Community Development / Livelihood Improvement

<Ho Chi Minh City>Local people of 3 suburb villages will be trained for skills in community improvement activities including credit fund management with the aim of completely handing over project activities from JVC by Dec. In slum areas, water supply construction will be completed. Ben Tre Province; Community improvement activities will be implemented around primary schools which JVC supported in 1994.

Rural Development / Environment Conservation

<Hue Province>The member of the village development committees will be trained in rural development planning and evaluation so they can manage the committees by themselves. Livestock banks will be continued to diversify agriculture production.

In the mountainous areas, pilot activities in agroforestry towards providing sustainable agriculture on slope land, and seeding production for reforestation will be implemented. On farms trails of rice and duck combinations practice will be expanded to 15 places in plain and white sandy areas. In each commune, a vet service shop will open with some contribution from grass root vets. Irrigation system for paddy fields, village roads and kindergartens will be constructed and or will be repaired.

Community Development / Promote Youth

<Hai Phong City>JVC has been constructing "a children's house" in a slum and is preparing to open it in July 95 with the children's committee and People's committee. The children's house will offer accommodation to orphans and street children, and provide supplementary class and vocational training.

With respect to the rural development activities, JVC continue to support the agriculture high school and to

organise training courses for commune leaders.

JVC will survey the influence of large scale industrial development in the rural area.

ラオス

1994年 4 月 8 日のメコン川架橋「タイ・ラオス友好橋」開通に始まり、95年 3 月17日、ラオス中部に建設予定のナムトゥンIIダムの電力売買に関してタイとの契約締結に暮れた1年であった。アジア開発銀行やメコン委員会主導の国際産業道路や100近いダム建設計画が持ち込まれた。これに対して、地元NGOのまだ認められていないラオスでは、情報公開や意見表明は困難であるが、国際NGOのラオス人スタッフを中心に、開発問題を勉強する会を持ち始めた。JVCはその中心メンバーとなっている。

■1994年度活動報告

危機に瀕する農村

●農村開発:ビエンチャン、ボーリーカムサイ等中部 3 県12郡、 南部 4 県 4 郡

1992年から養成してきた各村の村落開発ボランティア約 100名の中から、村の問題解決を自分達から積極的に担う人々が出てきた。相互の活動から学ぶ視察研修の企画進行役を務めるなどの活躍もした。従来、JVCや役所のスタッフが担ってきた役割を、村人が担うようになってきたのは大きな成果だ。また、持続的農業の実践など、村人の生活基盤である農業を軸に広がりを持ち始めようとしている。互助資金支援は、米銀行、養鶏・養豚等の回転資金を計9ヵ村、井戸掘り支援を2ヵ村に行った。乳幼児死亡、米不足の世帯数の減少など基本的ニーズに応えたほか、農作業に割く時間、子供を学校に通わせる余裕、薬を買う余裕、村内の連帯などが向上した、という声があがっている。

●伝統織物保存継承:ルアンパバーン県等

女性同盟の伝統織物センターの増改築に着手。伝統技術伝承の場となる。社会・文化研究所による伝統織物カタログ作りを支援。 失われつつあるラオス各地の伝統織物を記録にとどめた。ルアンパバーン県で支援している自然染色セミナーに関し、中間評価会議を開催した。織物の知識や技術、現金収入、子どもの就学率などの向上が村人より認められた。 しかし、村人の行動は、現金収入のみに走る傾向が強くなっており、伝統的文化の保存と生活改善という2つの目的の共存が見失われがちになっている問題がある。プロジェクト戦略と今後のあり方を検討することが緊急の課題となっている。

●村人による森林保全:カンムアン県5郡

19村にて養成した森林ボランティアが、森の『健康度』を調べるトレーニングや、タイ東北部と北部への研修などを経て、対象村の約半数が動き始めた。「自分の村の森を孫の代まで守りたい」という森林ボランティアを中心に、『村人の森』の設置を求める声が高まった。これを受けてJVCとカウンターパートの政府機関は、森林管理についての法律をもとに、活動地のカンムアン県の森林区分に関する県条例を作成した。これによって村人は自らの森を持てることになり、現在、村人主体の森林利用権や所有権の確立が、JVCの支援の元で実施されている。

■1995年度活動計画

村人の手でくらしを守る

●農村開発:ビエンチャン、ボーリーカムサイ等中部 3 県12郡、 南部 4 県 4 郡

市場経済の一層の流入のなかで、自分達で暮らしを守れる自信や 方法を育てる事が急務となっている。それには、村人の様々なニ ーズをより的確に把握するため、各村のフォローアップを昨年度 よりもきめ細かく行う。活発なボランティアを核として、活動の 一段の広がりを持たせるため、リーダー研修などを強化する。村 のボランティアがプロジェクト運営に対してより主導性が発揮で きるよう、県や郡職員の理解を促し、支援体制作りを目指す。農 業技術などの研修も強化する。

●伝統織物保存と継承:ルアンパバーン県等

織物と村の生活実態調査に続き、ビエンチャン特別市内の市場調査を行い、ラオスにおける織物の実際の状況を把握し、今後の当プロジェクトの方向性あるいはあり方を決定する。

●環境保全を中心とした地域開発:カンムアン県5郡約30村

活動地にダム建設予定のあるカンムアン県にて、森林保全と農村 開発を統合し、環境保全を中心とした総合プロジェクトとして深 化させる計画である。村人が生活の糧を得ている森林を、外部者 の伐採から合法的に自己防衛する手段として、村の森林所有権は 最重要課題である。村の森林保全の強い要望が出されている8村 で、村の森林利用権を確立する活動を支援する。

また、法的には森林と認められない荒廃林は、放置しておくと ユーカリなどの産業用植林に使われる可能性が高いため、政府役 人や村人を対象に、植林樹種による功罪を知る機会を設け、村人 主導の荒廃地利用に向けた取り組みを始める。これらと、住民主 体の村落開発を統合し、森林資源利用だけでは成り立たなくなり つつある農村生活の立て直しや、限られた森林保護を確実にする ための知恵と方策を村人と共に模索実現する。



The 1994 fiscal year has ended in agreement signingt to purchase electricity produced by Nam Theun 2 Hydroelectric power plant. this project is the starting point of a whole plan comprising of more than 100 hydro-plants. It should be obvious that these projects will flood areas in the reservoir destroying thousands of hectares of forest and expelling tens of thousands of people from their lands. JVC started to consider these macro-level initiatives in our development projects.

Laos

Fiscal 1994 Activities Village facing danger

<WOMEN IN RURAL DEVELOPMENT PROJECT>

Central Province, 4 Southern Province; Some Community Volunteers have started to productively solve problems in the village by themselves and have also taken on the role of facilitators in a workshop among Community Volunteers of Central 4 Province. It was a great step forward because previously such roles had been covered by JVC or Provincial staff.

JVC supported a revolving fund for raising chickens, rice and so on in nine villages and supported wells for three villages. Those activities decreased problems such as mortality and rice shortages. The villagers added that they now have enough time to work in their rice fields, raise children, go to school and get high solidarity in the village as unexpected outcomes.

<PRESERVATION & PROMOTION OF TRADITIONAL TEXTILE >

2 districts, Luangprabang Province; At a mid-term evaluation workshop of the project, some improvements were recognized by villagers. These included not only expanded knowledge and techniques for weaving and income, but also an increase in the number of children who go to school.

But the villagers have started to focus more on cashincome than before. This is against the two objectives which the villagers set up by themselves for preservation of traditional culture & improvement of life conditions. It will be necessary to set up a new strategy and direction for the project.

<COMMUNITY FORESTRY DEVELOPMENT PROJECT>

5 districts, Khammuoane Province; A series of training sessions, both inside and outside the country, for community forestry volunteers was organized. Half of the villages started to make plans for setting up a community forest in their village because they want to preserve their own forests for the next generation.

The province, central government and JVC were willing to support them through making a provincial agreement on additional guidelines for the registration of the forest at village level. As the main outcome, it will be possible for the villages to have their own forests with official approval.

Fiscal 1995 Plans

To protect living by villagers

< Women in Rural Development Project >

It is necessary to up-grade Community Volunteers' capability much more than before because a money-oriented economy is now accelerating to invade the villages with higher speed. Furthermore, we will make more opportunities to provincial/district staffs to strengthen their support-system or capability for villagers. We will continue to agriculture, revolving fund, wells based on the need of the villages.

< PRESERVATION & PROMOTION OF TRADITIONAL TEXTILE >
Review of project direction and approaches will be done, based on the problem findings after field survey at villages and at markets in Vientiane.

<ENVIRONMENTALLY SOUND COMMUNITY DEVELOPMENT PROJECT>

7 districts. Khammuoane Province; JVC will integrate the activities of rural development with women and community forestry in Khammuoane Province because forestry issues and industrial usage in degraded forest areas are currently of utmost importance. JVC will encourage the province and villages to achieve sustainable usage of the forest and forest land in ways initiated by villagers themselves.

エチオピア Ethiopia

1991年に軍事政権が倒れ、「民主主義の誕生」を誰もが喜んで迎えた。当時から続いてきた暫定政権は、1995年に総選挙でいよいよ正式な新政府として発足する。中央集権から地方分権への移行の中で、また度重なる組織の再構成や配置替えに、行政各現場は、混乱が続いているのが現状である。独裁政治、戦闘、飢餓の歴史を生きてきた市民たちが、ほんとうに安心して生きて行けるような社会は実現するのだろうか。

一方、国連機関やNGOが行なってきた食糧や物資の援助が、人々を依存的にしてしまうことが反省され、人々の自立と、持続的な生活を重視した活動が望まれるようになってきている。

■1994年度活動報告

自立への一歩

●マーシャ村総合農村計画

1994年度は、1993年度に引き続き、小麦の配給を全く行わず、住民主体の地域開発活動を目指してきた。住民との話し合いに基づいて作られた計画は、環境回復、農業・畜産、女性の生活改善、インフラ整備の4つの柱からなっていたが、小麦の配給中止に対する一部住民の反対、地方役人たちの無理解から、マーシャ村で計画を実行に移すことはできなかった。地方役人や住民、県、州政府との話し合いを続けたが、最終的に撤退を決定、12月までにマーシャ村から引き上げ、スタッフも全員解雇した。

JVCは足掛け10年におよぶマーシャ村での関わりを清算することによって、1985年当時からの緊急救援活動の功罪をもう一度考え直し、自らの取り組みの姿勢、可能性と限界を振り返る機会を得た。飢餓救済による傷が、小麦を配る側の政府役人やNGOの腐敗と、地域住民の依存心という膿になって膨らんでしまった今、JVCはそのエチオピアでの関わりを真剣に考える岐路に立っている。

■1995年度活動計画

新しい活動のために

●農村開発プロジェクト立ち上げ:北ショワ県

新たな農村開発活動の可能性を模索する。調査チームを作って農村地域を訪れ、どんな人と、どんなことができるのか、住民と共に具体的な計画を作る。JVCが何かを「してあげる」団体ではなく共に考え、行動していく仲間だということを、人々とどれだけ分かち合えるのかが大きなポイントとなる。また、地方行政の支配が強く、住民が自由に活動の範囲を決定できない状況の中で住民の自主性を損なわず、政府役人の賛同と協力を得ていくことも課題である。

●NGO農業・環境会議への参加、協力

エチオピア北部の農村開発において、干ばつ、飢餓とどう対するか、農村地域の人々の依存心からの自立をどう考えるかということは、もっとも大きな課題である。JVCのマーシャ村での経験と反省を、農村開発に関わるNGOをはじめ、政府各機関やその他の個人、団体に分かち合うことは非常に意味あることと考える。そこで、JVCはエチオピアNGO農業・環境ネットワーク主催の「NGO農業・環境会議」(95年12月開催予定)に積極的に参加し、開催に協力する。

●現地NGOへの支援

JVCのエチオピアへの関わりの可能性を広げるためには、日本の団体として存在するだけでなく、現地の人々の活動をより強いものにしていくことが求められている。JVCは、地方農村で自立しようと努力する人々を支援する姿勢と経験を分かち合えるパートナーとして、現地のNGOの活動を積極的に支援していく。

Every Ethiopian welcomed the "Birth of Democracy" with great expectations after the collapse of the Militaristic Government in 1991. The transitional government which has been in power since that time will undertake the nation's first general election in 1995.

Meanwhile, the attempt of decentralization of authorities has created much confusion at every level of government offices. Realizing a truly democratic society for Ethiopians who have gone through a history of dictatorship, wars, and famine is not an easy task.

External assistance of UN agencies and NGOs has been critically reviewed over the years. Food aid must aim at not making the beneficiaries dependent on the aid, rather at making them self-reliant and creating sustainable societies.

Fiscal 1994 Activities

A step for self-support

<MASHA INTEGRATED RURAL DEVELOPMENT PROJECT>
As in fiscal year 1993, JVC also stopped food aid in the year 1994. This was decided for the purpose of having self-initiated development programs by the community. The project proposal was developed with community participation and categorized into three main areas: Natural Resource Improvement, Social Service and Infrastructure Development.

However, a lack of understanding by local government authorities and dissatisfaction from the people who used to receive food aid made this project impossible to implement. Despite a series of discussions with local government authorities and the community, JVC came to the decision to completely withdraw from the project by December. 'Unfortunately, this also resulted in the termination of all the local staff's contracts on the project.

Fiscal 1995 Plans

For the new activity

<INITIATION OF A NEW RURAL DEVELOPMENT PROJECT>
North Shewa Administrative Zone; JVC will form a reseach team to make an area study to plan a new rural development project. The new project will be designed according to the study with community participation. JVC will try to make clear its aims to the community, since the initial communication might determine the success of the project. It is also of prime importance that JVC work collaboratively with government officials.

<PARTICIPATION OF 2nd NGO AGRICULTURAL AND ENVIRONMENTAL CONFERENCE>

There are two major concerns regarding rural development in Northern Ethiopia. One is how to deal with droughts and famine. And, the other one is how to encourage the people in the drought affected areas to be independent from external support ten years after the 1984/85 famine. In this light, it is probably beneficial for other NGOs and organizations to learn from the experiences and shortcomings of JVC's past experiences in Masha. JVC will offer to take active part in the 2nd NGO Agricultural and Environmental Conference.

<PARTNERSHIP WITH THE LOCAL NGOs>

In order to extend JVC's potential possibilities within Ethiopia, JVC will provide a partnership support to local NGOs which aim at helping local people who try to create a sustainable society through self-initiative.

1986年に、それまでの軍事政権から文民政権に移管され、『寡婦や孤児に対する支援計画』 が公約された。しかし軍政時代につくられた、共同体の結束を壊し村人同士の不信感を促 す自警団制度はそのまま残され、村の恐怖の記憶を持続させており、右派勢力による市民 への脅迫や誘拐、暗殺も今尚続き不安を増長させている。

1988年に、公約が2年たっても実行されないことから、自らの権利を実現するためにコ ナビグア(連れ合いを奪われた女性たちの会)が生まれた。

JVCは1993年から日本ラテンアメリカネットワークと共同でこの団体の支援をはじめた。 94年1月から再開されたグァテマラ政府及び軍部とURNG(グァテマラ民族革命連合) との和平交渉は3月に人権に関する合意がなされたが、その後すぐの軍部の大々的な強制

徴兵をはじめとして合意を無視する行為が続き、和平交渉は7月にはいって中断した。11月に国連人権監視団が入り活動をはじめ、95 年1月に交渉は再開して人権問題に続く2番目の山場ともいえる「先住民族のアイデンティティーに関する合意」が3月に無事整った。 11月の選挙を前に先住民族の協議会は、マヤ民族の政治参加を打ち出して真の意味での多民族国家への歩みをはじめている。

プロジェクトは日本ラテンアメリカ協力ネットワーク(RECOM)と共同で進められた。

■1994年度活動報告

立ち上がる女たち

●コナビグア(連れ合いを奪われた女性達の会)を通じての支援 平和に安心して暮らせるための活動として保健衛生、青少年教育、 会計指導等のセミナー開催、および避難女性の保護活動を支援し た。また、70~80年代初期、軍部による虐殺で犠牲者が大量に出 て、いまだ荒地や原野に埋められたままとなっている秘密墓地の 発掘支援を行った。

一方国内での活動としては、コナビグア共同代表ルシア・キラ さんの招聘や、人権擁護団体からの要請によるFAX, はがきの送 付、そして、グァテマラの実状をしらせる広報活動を行った。

■1995年度活動計画

果敢に生きる

グァテマラプロジェクトは日本ラテンアメリカ協力ネットワーク の事務所独立に伴い共同という形を解消した。

●グァテマラ

<秘密墓地の発掘>

現場においても最も資金の集まりにくいこの部分の支援を行う。 <側面支援>

国内からのグァテマラウォッチおよび国内での活動

コナビグアの女性たちは常に脅迫を受けつつ、果敢に立ち向かっ ている。彼女達や同じように弱い立場に立たされている人々の、 平和に生きる権利を守れるのは海外からの監視の目である。彼女 たちの要請をうけてFAXやはがきなどを支援ネットワークと共に 送り彼女達の活動の側面支援を行う。

●ボリビア

<リサーチ>

ボリビアは中米のグァテマラと同じように、南米で最も先住民族 の割合の多い国であり、彼らは社会の中で弱い立場に立たされて いる。しかしまた、昔ながらの共同体を維持し、市場経済に壊さ れない社会を残しているところがあり、何らかのオールタナティ ブの可能性のヒントがそこにかくされているのではないかとの思 いもある。今後のグァテマラとの関わり合いやアジア、アフリカ との関わり合いも考慮しながら、先住民の自立に向けた活動支援 の可能性の調査を始める。

Since "The support plan for widows and orphans" which was committed publicly in 1988, has not been carried out even after 2 years, CONAVIGUA (the group of women who lost their spouses) was formed to realize their own rights.

中南米

Latin America

Women stood up and organized this group to change their lives trying to overcome their obstacles of not only being aborigines and women, but losing their spouses, family finances, and having to provide for their children.

JVC started to support this group in cooperation with Japan Latin America Cooperation Network since 1993.

Fiscal 1994 Activities

Women who stand up

The Guatemalan government and military in peace negotiations with URNG (Guatemalan national revolution union) held in January 1994, came to agreement regarding human rights in March. But soon after that, military called a compulsory draft and other actions which disregard the agreement. This caused a suspension the peace negotiation in July. In November, UN human rights observation group began their investigation in Guatemala. In January 1995, the negotiation was started again and the second turning point "The agreement regarding identities of aborigines" was settled in March. The conference of aborigines has started to approach a multiracial nation with a plan to have the Mayan people join them for politics before the election in November.

This project has been promoted in cooperation with Japan Latin America Cooperation Network (RECOM).

<JVC'S SUPPORTS THROUGH CONAVIGUA>

We supported health and sanitation, youth education, holding seminars of accountant guidance etc., and protective activity for refugee women. We also supported the excavation of secret graveyards in a wilderness which contains many people sacrificed by the military from the early '70~'80 period.

Our activities in Japan included inviting Mr. Lucia Quila, the representative of CONAVIGUA, sending faxes and cards on behalf of the support group of human rights, and performing public relation activities to inform people of the actual situations in Guatemala.

Fiscal 1995 Plans

To live bold

Guatemalan project in a form of cooperation has been dissolved as Japan Latin American Corporation Network becomes independent. <SUPPORT THE EXCAVATION OF SECRET GRAVEYARDS >

(it is very hard to raise funds in Guatemala.)

 $\dot{<}$ WATCH OUT GUATEMALA FROM JAPAN AND BE ACTIVE IN JAPAN >

Although women of CONAVIGUA have been threatened, they are facing up bravely to their problem. Our observation from overseas would protect Guatemalan women and people who are in a weak position for their rights allowing them to live peacefully. We will support CONAVIGUA activities by sending faxes and cards per their request.
<RESEARCH INTO BOLIVIA>

In Bolivia, as well as Guatemala, the rate of aborigines is the highest in Latin America and they are In a weak position. But Bolivians still keep their long-established communities and remaining societies which have not been destroyed by the market economy in some part. We will also investigate into a possibility of support of activity for aborigines' independence with consideration of the relationship with Guatemala, and the relationship with Asia and Africa in the future.

パレスチナ

1967年の第三次中東戦争の結果、イスラエルはシリア領ゴラン高原やエジプト領シナイ半島と同時に、ガザ地区と東エルサレムを含むヨルダン川西岸地区を軍事占領した。シナイ半島は平和条約締結と引き換えにエジプトに返還され、ゴラン高原をめぐっては現在シリア・イスラエル間で返還をめぐる交渉が続いている。一方、ヨルダン川西岸地区とガザ地区は独立国家の樹立を悲願とするパレスチナ人と、軍事占領を続けるイスラエル人との血生臭い対立の舞台となってきた。両地区の水資源、土地や低廉な労働力を支配するイスラエルに対し、占領下のパレスチナ人たちは軍事手段やストライキやデモンストレーション、税金不払いなど様々な手段で対抗してきた。

対立の核心となっているのは土地をめぐる争いである。「耕作していない土地は持

ち主のいない土地である」など、様々な理由を持ち出してイスラエルはパレスチナ人の土地を没収してきた。そして、没収された土地には占領地の永久支配を望むユダヤ人の民間人が入植し、周辺のアラブ農村の住民達との摩擦を引き起こしている。

1993年9月、パレスチナ民族主義者を代表とする放浪のパレスチナ解放機構(PLO)はイスラエル労働党政府との間で、パレスチナ暫定自治の原則に合意した。ガザ、エリコ両地区を皮切りに、東エルサレムとユダヤ人入植地を除く西岸地区全域で5年間、暫定的にパレスチナ人に自治権を与え、エルサレムや入植者の将来、難民の帰還、水資源の分配など対立の焦点となっている問題について話し合いで解決しようとする枠組みである。

しかし、イスラーム復興勢力のみならず、PLO左派もこの妥協に強硬に反対し、パレスチナ社会の分裂は深まっている。一方、イスラエル側でも右派はこの枠組みに反発しており、協定の先行きには不安定な要素がまだまだ多い。

西岸地区では、しかしイスラエルはこの枠組みを既成事実作りに最大限利用している。東エルサレムと西岸の各地で、自治協定調印以降イスラエルによる土地没収と入植地拡大工事はむしろ加速されており、農民達にとっては不耕地に植林して耕作の事実を証明する以外、土地を守る手段は残されていない。

ガザ、エリコに限らず、占領地の各都市では平和の到来を見込んでの海外のパレスチナ人や国連機関、日本を含め西側のパレスチナ支援国から資金が流入しつつあり、各地でちょっとした建設ブームとなっている。しかし、肝心の自治拡大交渉はなかなか進展していない。イスラエル軍が配置転換をした後、西岸地区各地に住む15万人の入植者たちの安全をどのように保証するのか、その決め手に欠けているからである。本稿執筆時点(1995年7月1日)で、西岸地区の北部4都市の市街地から郊外にイスラエル軍が配置替えする交渉が大詰めにさしかかっている。しかし、その周辺の農村に関してはイスラエル軍は依然引き上げる用意がない。

■1994年度活動報告

土地を守るために

●植林による農民支援

ボーリーン村における農民の自立のための植林事業もこの入植地問題と真っ向から向かい合っている。いまだ自治の及んでいないボーリーン村は依然イスラエル軍の占領下にあり、イズハール、ブラーハという二つの入植地に挟まれている。村人たちは武装した入植者たちの暴力のみならず、土地没収の脅威にもさらされて暮らしている。JVCはパレスチナ現地NGOのパレスチナ農業委員会組合(Union of Palestinian Agricultural Work Committees, UAWC)と提携し、1994年度ボーリーン村のトール山上の未耕作地約30へクタールを対象に、林檎などの果樹植林事業を実施した。その最大の目的は、「10年以上耕作の痕跡が認められない土地は国有地として没収する」との占領軍の政策から土地を守ることである。

雨期に入るまでの8、9、10月、村とトール山を結ぶ2kmの簡易 農道が開拓され、トラクターやロバ等での通行が可能になった。 さらに、ブルドーザーを用いて岩れきを除去、農地として再び使 用できるよう開墾し、トラクターによる耕起作業が続けられた。 雨期に入ってからは不順な天候やUAWC側の責任者の病気・入院、 入植者による妨害などの悪条件が重なり、作業は遅れ気味ではあ るが、家畜や野生動物による食害を防ぐための防除フェンスの設 置作業、土壌流亡を防ぐための石垣積み作業、そして植林と一連 の活動が続けられている。

■1995年度活動計画

祖国の土地を守る

●植林

1995年度、JVCはやはり土地没収の脅威にさらされて暮らす農民を支援するため、ラーマッラー地区のアル・ムガイイル村での植林事業を開始する。

●巡回医療

同時に近隣のスインジル村で、村議会のほか、現地NGOのパレスチナ医療救援委員会(Union of Palestinian Medical Relief Committees)および米国NGOのアメリカ近東難民支援機関 (American Near East Refugee Aid)と共同して、同村の簡易診療所の活動支援と、同村を含めた周辺10ヵ村の約30,000人への巡回医療体制づくりを実施する。外出禁止令や突然の検問所設置など、農村住民を都市でのサービスから切り離し孤立させようとする占領軍の締め付けの中で、一人でも多くの農村住民が祖国パレスチナに留まれる環境づくりを目指す。



In June 1967, the Israeli army captured the Syrian Golan Heights, the Egyptian Sinai Peninsula, the Gaza Strip and the West Bank of Jordan, including East Jerusalem, and put these areas under occupation in the wake of the Third Middle East War. Sinai was later handed back to Egypt in return for Egypt's signing of a peace treaty with Israel, while negotiations over Israeli withdrawal from the Golan is currently underway between Syria and Israel. Meanwhile, the Palestinians, longing for the establishment of their own independent sovereign state, have been engaged in bloody conflict with the Israelis, the occupiers, over the West Bank and Gaza Strip. The Palestinians have resisted their occupiers -- who control land and water resources and who exploit them as a source of cheap labor -- through armed struggle, commercial strikes, demonstrations and refusal to pay taxes.

Disputes over land lies at the heart of the conflict. Israel has confiscated

Palestinian land on various pretexts., including the claim that uncultivated land belongs to the state. Aiming for permanent Jewish control of the area, Jewish civilian settlers have moved onto confiscated lands and established settlements resulting in

tension with the Arab population of surrounding villages.

In September 1993, the Palestine Liberation Organization (PLO) in exile, representing the nationalist camp in the Palestinian community, and the Labor-led Israeli government both agreed on the Declaration of Principles for limited Palestinian self-rule. This is a framework for both parties to stop using violence and instead find a solution to their disputes through talks. During the five-year transitional period, Palestinians will govern themselves in Gaza and Jericho at first, and layer will expand their rule to all of the West Bank with the exception of East Jerusalem and Jewish settlements. All sensitive issues dividing the two sides, including the future of Jerusalem and the settlements, refugees' right to return and the distribution of water resources, are subjects to be resolved by the end of the transitional period. However, not only the Islamic movements but also PLO leftists strongly oppose these concessions and the already sharp rift in the Palestinian community has widened as a result. On the Israeli side as well, the Right opposes the deal, adding further uncertainty to the future of the accord.

In the West Bank, Israel exploits this framework to the utmost degree in order to create an irreversible de-facto on the ground. After the accord was signed, Israeli land confiscation and settlement expansion were accelerated. No alternatives are

left for the farmers to protect their own lands other than to plant trees on the uncultivated land.

In the meantime, a gradual flow of funds, from Palestinians abroad, the United Nations and donor countries of the West including Japan, has caused a construction boom in the major cities of the occupied territories. Meanwhile, talks between the Palestinians and the Israelis show little signs of progress. The lack of effective measures to ensure security for the approximately 150,000 settlers after the Israeli army is redeployed is blocking the talks. At the time that this article was written, both sides were about to reach an agreement to redeploy Israeli troops from the downtown of four Palestinian towns in the northern West Bank to their outskirts. As for the surrounding villages, the Israeli army is not ready to pull out at all.

Fiscal 1994 Activities To protect own land <AFFORESTATION>

West Bank village of Bourin; Afforestation project for farmers to support themselves in the West Bank village of Bourin, south of Nablus, is under threat by Jewish settlers. Bourin still remains under military occupation and is also surrounded by two Jewish settlements to the north and south, Bracha and Yizhar respectively. Villagers live in fear of armed settlers' violence, as well as the fear of confiscation of their lands by the Israeli government. JVC, in cooperation with the Union of Agricultural Work Committees (UAWC), a local Palestinian NGO, implemented land reclamation and fruit tree planting projects on the land owned by Bourin farmers in the fiscal year 1994. Before the rainy season started in August, September and October, a two kilometerlong agricultural road was opened, effectively connecting the village's residential area to a 30 hectare-wide rocky and barren land on the top of Mt. Tur (830 m above sea level) for either donkey or tractor transportation. Then land reclamation work, using bulldozers was conducted to remove heavy rocks and level the ground for agricultural purposes.

Since the rainy season started in November, heavy rainfall, UAWC's project supervisor's hospitalization, and physical disturbances by the settlers have prevented the work from going forward swiftly to the advanced stages. Despite all of these difficulties, by the time of the writing of this article, reclamation work had been completed over all of the planned site. In addition, fencing to prevent wild deer and livestock from eating the seedlings, terracing to protect the soil from erosion and planting mainly apple and almond fruit

trees are now taking place.

Fiscal 1995 Plans To defend mother land <AFFORESTATION>

al- Mughayir Village; In the fiscal year 1995, JVC will start its land reclamation and plantation project in al-Mughayir Village of Rammllah District, in an effort to support farmers who are facing the threat of land confiscation.

Palestine

<MEDICAL PROJECT>

Sinjil Village; In cooperation with Sinjil Village Council as the owner of the village clinic, the Union of Palestinian Medical Relief Committees, a local Palestinian NGO, and American Near East Refugee Aid, and an American NGO, as technical counterparts, JVC helps the village clinic improve its services and extend activities to neighboring villages.

Over 30,000 rural residents, including the seasonally moving Bedouins, are the target population. JVC helps these rural residents to remain living on their own land despite various Israeli army practices to ultimately force the Palestinians to leave their homeland. Depriving rural residents of access to health services provided in the urban area by suddenly blockading roads and frequently imposing curfews represents some of those practices. Thus, creating a rural health center and extending its services is vitally required.

南アフリカ

全人種の参加した総選挙の実施とマンデラ大統領の就任から1年が経った。南アフリカの人々は自由を謳歌するのと同時に、失業、土地問題、住宅不足、環境破壊などの問題に直面している。RDP(再建開発計画)の達成には、南ア国内のNGO、CBOの力が不可欠である。JVCは南ア国内の各団体と協力しながら人材育成、農村開発、女性などをテーマに変革の課程にある南アでの活動を実施していく。

■1994年度活動報告

解放から開発へ

●帰還難民および地域住民に対する職業訓練:全国各地

アパルトヘイト下では、黒人に十分な学校教育や技術習得の機会が与えられなかった。現在、黒人就労人口のうち40%以上が失業しているが、黒人が技術を身につけ、新しい国づくりに参加していくことが重要である。JVCはUNHCRと協力し、620名の帰還難民、元政治囚や貧困家庭の失業青年など地域住民を対象に職業訓練を行い、人材を育成した。コースは、大工、溶接、電気技師、自動車修理、幼児教育、裁縫、料理などで、JVCは選考、カウンセリングを行い、生徒は奨学生として全国の職業訓練校、専門学校で学んだ。卒業生には、企業へ就職した者、協同生産組合を設立した者、自営業を営む者などがいる。

●農村における協同組合活動と生態系農業の強化:東ケープ州旧トランスカイ・ホームランドで協同組合活動、ヘルスワーカーの育成、青少年教育など総合的な農村開発に取り組むイシナンバ地域開発センターの活動に協力した。協同組合活動では、特に6ヵ村において行われている農業、パン焼き、裁縫、編み物、金網作りの技術指導、組合の運営指導の他、協同組合の具体的な展望を持つために、イシナンバのスタッフと村人の8名がジンバブエへのスタディツアーを実施した。また、農業に力を入れていくために2名がケニア有機農業協会で行われた有機農業のトレーニングに参加した。さらに、バングラデシュでも農業指導の経験を持つ村上真平氏を招き、生態系の研修会を実施した。

●子供の教育支援:ソウェト、ハウテン州

ジョハネスバーグ市にあるソウェトは人口300万人の南ア最大の 黒人居住区。子供の教育支援として、スラムの住民が自主運営し てきたプヤニ小学校、レリチャペジ小・中学校の校舎補修、教材 購入、無資格の先生の資格取得のための研修参加などを支援した。 また、ストリートチルドレンの子供達150人が生活するマバラ・ ストリートチルドレンホームの建物の補修および教材や生活必需 品の支援を行った。

■1995年度活動計画

確実な一歩を

●帰還難民および地域住民に対する職業訓練:全国各地

1994年度と同じく、UNHCRとの協力の下に帰還難民および地域住民を対象に約500名の職業訓練を実施する。コースは、地域での需要の高い大工、溶接、電気技師、裁縫、幼児教育など。1995年度は、各地のNGO、CBOとのネットワークを作り、生徒の選考、協同生産組合づくりなどで協力していく。1994年度の生徒のアフターケアーも継続して実施する。

●農村における協同組合活動と生態系農業の強化:東ケープ州 1994年度に引き続き、イシナンバ地域開発センターが実施する協同組合活動と生態系農業の活動を支援する。協同組合については運営と市場の問題に直面したため、その点での改善を試みていく。生態系農業については、イシナンバ地域開発センターと農業協同組合が行われている村においてモデル農場作りを行い、村人の関心を高めていきたい。さらに旧シスカイ・ホームランドで活動するジンギサ教育センターに対する支援を行う。ジンギサでは、村の生活改善指導員と地域開発委員会の育成を通して、住民参加を促進する研修会を実施していく。

●子供の教育支援:マイレ村、北西州

旧ポプタツワナ・ホームランドのマイレ村で住民委員会が自主運営してきたマホポラ保育園に対し、園舎の建設では、村人の雇用 創出・技術習得の機会ともなるよう建設業者と計画を立てる。



The first democratic elections were held in April 1994 and Mr.Nelson Mandrel become the president of the country. South African people enjoy their freedom, but at the same time they face problems like unemployment, redistribution of land, housing shortages and environmental destruction etc. JVC will continue in supporting and empowering the disadvantaged people of South Africa during their transitional period.



Fiscal 1994 Activities

From liberation to development < SKILLS TRAINING FOR RETURNEES AND YOUTH >

National Wide: Under the apartheid education system, there was no good education and skills training system for black population, through this more than 40% of the black population are unemployed During 1994, JVC in cooperation with UNHCR, placed in training 620 returnees, expolitical prisoners and unemployed youth in various skills such as carpentry, welding, electricity, more mechanic, educare, sewing, bookkeeping and office administration. Students were selected and enrolled in various training institutions throughout country. More of the graduates are either working for companies, self-employed or participating in co-operatives.

<STRENGTHENING OF CO-OPERATIVES AND ECOLOGICAL AGRICULTURE IN RURAL AREAS>

Eastern Cape Province: JVC support the rural development programme through Isinamva Community Development Center in former Transkei Homeland. Isinamva facilities cooperatives, training of health workers and youth activities. To strength the co-operatives in the villages, Isinamva trains the villagers in practical skills like agriculture, baking, sewing, nitting and netwire making and management skills. Through JVC Isinamva had exposure in co-operatives activities in Zimbabwe and organic farming in Kenya. Mr. Shimpei Murakami also conducted workshops in ecological agriculture.

<SUPPORT FOR CHILDREN AND EDUCATION>

Soweto, Gauteng Province: JVC supported community schools in squattercamps by training teachers, repairing school buildings and provision of school materials. JVC also supported the Mabala Streetchildren's Home by repairing their building and buying them basic things like clothing and learning materials.

Fiscal 1995 Plans A certain step

<SKILLS TRAINING FOR RETURNEES AND YOUTH>

National Wide: JVC in co-operation with UNHCR plans to place 500 returnees, ex-political prisoners and unemployed youth in training through the country in various courses such as carpentry, welding, sewing and educare. Networking with local Egos and Cobs will be strengthened so as to have more inclusive selection of the students. We will also continue to do follow-up for the students trained in 1994.

<STRENGTHENING OF CO-OPERATIVE AND ECOLOGICAL AGRICULTURE IN RURAL AREAS>

Eastern Caps Province: JVC will continue to support cooperative and ecological agriculture projects of Isinamva Community Development Center. For the co-operative project, we would like to improve the business and marketing skills. In the ecological project, we will make model gardens both at Isinamva and in the village. JVC will start to support another local NGO, zingisa Education Project in former Ciskei Homeland. We will cooperate in their workshops to train community level trainers and community development committee for people's participation in rural development.

<SUPPORT FOR AND EDUCATION>

Maile Village, North West Province (former Bopthutatswana Homeland): JVC will participate in the development of this community by supporting the building of creche, development and training of teachers and provision of learning materials for the creche.



国内活動

1994年度は様々な地球規模の問題に対して、NGOによる国家の枠を越えた活動が、世界的に注目されたと同時に、日本でも行政や企業ではなく、市民が参加して社会問題を解決する場が盛んに求められた年であった。JVCにとっても、94年度は急激に変化する社会状況とNGOに対する社会的要請を的確に捉え、応えていく必要に迫られた年であった。こうした背景のもとで95年1月には、各現地事務所の代表と全東京スタッフが参加して、長期目標と組織的な課題を話し合う代表者ミーティングが開かれた。そこではNGOの社会的な役割とJVCの活動を広く知ってもらう広報活動、及び国内事業の重要性もこれまでになく認識された。

■1994年度活動報告

増える参加の場

●恒例の活動

機関誌「トライアル・アンド・エラー」の発行、定期的な説明会、 講演会や一時帰国スタッフの報告会、ボランティアが中心となっ て行う勉強会などが、年間を通して行われた。

●会員の集いとキャンペーン

JVCにとって、会員は国内における活動の重要な担い手であって、「仲間」である。この仲間が集いコミュニケーションを図ると同時に、共に行動することを呼びかけるため、JVC山形がホスト役になってJVC初の会員の集いが、8月に山形で開かれた。またJVCの活動の国内における支援者、協力者の裾野を広げるために「協力したい気持ちが出発点、94」キャンペーンが10月から11月にかけておこなわれ、講演会、料理会、シネマ・トーク、手工芸品バザーといった約70回の様々なイベントが23都道府県で開催された。

●JVC学校

開発教育の一環として一般の人々を対象とした連続講座を2つ開講した。ひとつの講座ではJVCの現場での活動と現地の状況を、別の講座では、JVCのような活動を必要とする状況を作り出している、日本の経済や消費生活について学ぶ機会を提供した。

●ネットワークを通して

昨年に引き続き、カンボジア市民フォーラム、アフリカ日本協議会、市民フォーラム2001の3ネットワークと協力してカンボジア、アフリカ、環境をテーマに国内外のNGOとのネットワークと日本社会への提言活動を行った。アフリカ日本協議会の下に作られたルワンダ国民再融和支援委員会に参加し、ルワンダ問題を広く社会に訴えた。インドシナ開発を現地の人々と日本市民の立場で考えるメコンウォッチネットワークでは、中心メンバーとして、日本政府主催の閣僚会議や民間シンボジウムに参加すると同時に、対抗会議としてNGOフォーラムを開催した。またNGOの活動を法的に認知するための制度を推進する運動として「市民活動を支える制度を考える会、C's」に参加し、提言活動を行った。また自治体の国際化に関する調査研究会のメンバーとして、自治体の国際協力の有るべき姿を、NGOの立場で伝えてきた。阪神淡路大震災に際しては、外国人地震情報センターを通して外国人被災者を支援した。

■1995年度活動計画

仲間を増やす

1995年度は昨年度に引き続きボランティア活動やNGOの社会的役割に対する期待や理解が、ますます高まってくると思われる。
JVCの国内・海外での活動目標を明確にし、それを分かりやすく伝えることが重要である。海外の活動が長期的な計画のもとで、じっくりと住民の力を強めていくことに重きを置くことになっているため、活動の資金も、形や期間に縛りのない自己資金がより求められている。JVCの活動を理解し長期的に支援してくれる会員、協力者を増やすことが重点課題となる。また南北問題や環境問題の視点から、日本が第三世界や地球に対する負担を減らしていく取り組みが必要である。開発教育や種々の講演会や勉強会、地域のグループとのネットワークを通して、こうした取り組みを自ら実践する仲間を、前年に引き続き増やすことに努める。

●国内事業

主な活動としては、「JVC会員の集い」や地方との関わりを広げるために「協力したい気持ちが出発点」キャンペーン、また「ちきゅう人講座」が昨年以上に充実した内容で企画されている。また、会員やJVCの活動に興味のある人々に、JVCの活動と現地の状況の理解をより深めてもらうためのブックレットをシリーズで発行する。

●ネットワーク

アフリカ日本協議会、カンボジア市民フォーラム、市民フォーラム2001、メコンウォッチの各ネットワーク団体との連携を通して政府との対話を進める一方、戦後50周年やAPEC大阪会議に関連して、各種集会にJVC独自の視点で参加していく。また地方自治体の国際化に関する調査研究会のメンバーとして、日本の自治体の国際協力にNGOの参加を求めていく他、C'sの運営委員として、市民活動団体のための新しい法制度実現に努める。



1994 was year both of a world-widely attention on NGO's international activities, and also was a year which individuals secede chances to solve social problems instead of governments or corporations. To JVC it was a year in which there was a need precise grasp and response to the rapidly changing society and the social demands towards NGOs. In the meeting we recognized the importance of widening knowledge of the public on topics such as NGO's social role, and activities of JVC, and that of domestic activities.

Domestic Activites

Fiscal 1994 Activities

Domestic activities for increasing volunteers < REGULAR ACTIVITIES >

Activities such as the publication of magazine Trial & Error, meetings, seminars, meetings held by staff who returned from abroad temporarily, and study meetings by volunteers were conducted throughout the year.

< MEMBER MEETINGS AND CAMPAIGN >

For JVC, members play a key role in the activities operating domestically, and are considered as friends. The first JVC Members Meeting was held in Yamagata, in August, hosted by JVC Yamagata to promote communication among these friends and to gain more support for our domestic activities. A campaign of 'Let's start when you feel like helping, 1994' was carried out in October and November. About 70 events such as seminars, cooking lessons, cinema talks, and handicrafts bazaars were held in a total of 23 prefectures.

<JVC SCHOOLS>

As part of development education, we held two serial seminars for the public. One seminar offered an opportunity to learn about JVC's activities and conditions abroad, while the other was held in order to learn about the Japanese economy and consumption which results in problems and situations which becomes impossible to solve without aid from groups like JVC.

<THOROUGH THE NETWORK>

Continuing from last year , in cooperation with Cambodia Peoples' Forum, Africa-Japan Conference, and Peoples' Forum 2001, JVC joined the Rwanda National Reconciliation Aid Committee, a subsidiary of Africa-Japan Conference, and appealed widely to the society about the Rwanda issue. As a key member of the Mekong Watch Network which studies Indo-Chinese development projects from both the viewpoint of the local people and of a Japanese citizen, JVC participated in Indo-Chinese Cabinet Conference hosted by the Japanese government and also in private symposiums, and at the same time, held NGO forums as a counterpart.

To promote legal recognition of NGO s, JVC joined "coalition for registration to support Citizens' organizations" and made some proposals. As a member of the local government's ODA research group, JVC explained the ideal way of international cooperation of a local government from an NGO's point of view. Concerning the Hanshin -Awaji Earthquake, JVC helped foreigners jointly with the

Foreigners' Earthquake Information Center.

Fiscal 1995 Plans

Increasing members

Continuing from the previous year, 1995 seems to be a year of escalating expectations and understanding on volunteer and social activities. It is important to communicate and make clear JVC's aims nationally and internationally. It is more favorable to have one's own capital which does not designate particular use or expiry date in order to slowly raise the level of the local people under long term plans abroad. It is an important aim to increase the number of member volunteers who understand and can help long term. Also, it is vital to try to decrease the burden Japan produces JVC to the third world by reducing problems environmentally and North-South problem. We continue to increase members through networking of local groups who can organize and increase members of JVC.

<DOMESTIC ACTIVITIES>

The main activities include, "JVC Members Meeting" Campaign to increase connections with other provinces, and the "Earthling Lecture" which is planned. Also, booklets will be published in order to deepen the understanding on JVC's activities and conditions abroad,.

<NETWORK>

Through groups such as Africa- Japan conference, Cambodia People's Forum, peoples' Forum 2001, and Mekong Watch, we continue to discuss with the governments, meanwhile, we participate in many meetings to present JVC's own point of views, such as the 50th Anniversary of World War 2, and APEC Osaka Conference.

Also as a member of the local government's ODA Research Group, we try to ask for administration members, in order to create new laws to support citizens' organizations,



JVC神奈川 JVC Kanagawa

■1994年度活動報告

成果を果たして

●JVC神奈川事務所閉鎖

1987年から活動を続けてきた神奈川事務所は、定住難民訪問支援の終了、神奈川県にNGOが数多く生まれてきたことなどから、一応の役割は果たしたと判断し、1995年5月をもって閉鎖することになった。

神奈川事務所開設の主な目的は、1)日本の地域にJVCの活動拠点をもつ 2)定住インドシナ難民支援活動の調整 3)自治体との連携であった。1)については、定住難民支援活動あるいはイベント、広報活動を通じて神奈川県内で活発に活動した。しかしJVC神奈川は地域の活動の中から生まれたものでなかったため、活動拠点としての基盤は弱かった。JVCの撤退を機にボランティアが中心となって「神奈川JVCフレンズ」が生まれた。今後はJVCや地域のNGOとネットワークを結びながら独自の活動を行うようになった。地域に根ざした活動として新たな段階を迎えることになった。

2)は当初東京本部で行っていたが、神奈川県に定住難民が多いことからJVC神奈川で調整を行うようになった。定住難民の家庭を訪問し、日本語を教えたり相談事に乗るボランティア活動を行っていたが、定住難民の居住地域にボランティアグループが生まれてきたこと、定住者自身がコミュニティーを作り自主活動を行うようになってきたことから、1991年度で訪問活動は終了し、自主活動の財政支援に切り換えた。その後、彼ら自身で助成金を申請できるようになり、またインドシナ難民の受け入れもほぼ終息したため、1994年度をもって定住難民の支援活動は終了することにした。他の外国人への支援活動も、行政が外国人へのサービスを視野にいれてきたこと、NGO間で外国人支援が定着してきたことからJVCとしては活動を中止する事にした。

3)は神奈川県の長洲前知事の"民際外交"の理念に賛同したものである。これは国を超えて、市民、NGOと自治体が地球規模の問題に取り組むネットワークを作ろうというものである。JVCはタイでのインドシナ難民救援活動、エチオピアへの医師、看護婦の派遣、イラクへの水道技術者の派遣など神奈川県の協力を得てきた。またJVC神奈川のスタッフは、各種委員としてNGOの考えを県の政策に反映させてきた。現在、各自治体は国際協力に強い関心を示している。これまでの神奈川県との関係を検証し、今後自治体とどのように連携できるか考えていきたい。

Fiscal 1994 Activities

Achieved Goals

JVC Kanagawa office was closed

The JVC Kanagawa office opened in since 1987, closed in May 1995 after achieving their goals to support for resident refugees in Japan and to increase NGOs in Kanagawa.

The purposes of the Kanagawa office were;

- To have a regional access in the Japan for implementing JVC's activities.
- 2. Coordination to support for resident Indo-China refugees.
- 3. Cooperation with local governments in Kanagawa

Regarding item No.1, JVC Kanagawa actively worked on supporting resident refugees by holding special events and through public relations in Kanagawa. As JVC Kanagawa was closed, "Kanagawa JVC friends" was formed mainly consisting of volunteers. In the future they will have their own activities in coporpation with the JVC and regional NGOs. They will be moving on to a new step that will involve activities in the local areas.

Regarding item No.2, support was originally coordinated from the Tokyo head office, but eventually switched to Kanagawa because of the many resident refugees there. They conducted activities such as visiting homes of resident refugees, teaching them Japanese, and discussing with them about their problems. As other local volunteer groups were formed and resident refugees started to build their own community and start their own activities, JVC Kanagawa ended the visiting home program in 1991 and sifted its main activities to provide finanical support to resident-refugee communities. Furthermore the public administration has begun to provide services for foreigners, JVC has decided to terminate the program.

Regarding item No.3, JVC supported the former governor, Mr. Nagasu, on his idea of "People to people diplomacy". This is the idea to try to make a global network in which the citizens, NGO, and the self-governing body can tackle world wide problems, crossing borders. JVC worked in cooperation with Kanagawa prefecture in helping Indo-China refugees in Thai, sending doctors and nurses to Ethiopia, and sending water works technicians to Iraq. As a member of various committees, JVC Kanagawa staff made efforts to present a stance that NGOs be reflected in the policy of Kanagawa prefecture. Presently, local-governments have shown interest in international cooperation. We will reexamine our relationship with the Kanagawa to present and consider how we can cooperate with the local governments in international cooperation.

総会·執行委員会報告

Annual Meeting & Executive Committee Meetings

第12回総会 The 12th Annual Meeting

1994年6月12日、労政会館に約70名の参加者を迎えて開催されました。社会的信頼性のある任意団体として、93年度活動報告、94年度活動計画、会計報告を会員の皆様に評価していただくために、資料が総会開催以前に全会員の方々に郵送されました。議長からの言葉にもありましたが、JVCが今後より幅広く活動を展開していくために、自己評価や検証が今後さらに必要になっていくことをJVCとしても改めて認識させられた総会となりました。今後も、皆様からのご意見をお待ちしております。

On June 12, 1994, the 12th Annual Meeting was held in Tokyo, and approximately 70 JVC members participated. Before the meeting, a report on the activities of fiscal 1993 and the plan for fiscal 1993 and the plan for fiscal 1994 with financial information was sent out to every member of JVC. As the chairman pointed out at the meeting, the self evaluation was most needed for JVC in order to expand its activities. Opinions or suggestions from JVC members are welcome at any time.

執行委員会 Executive Committee Meetings

- ■第47回(1994年6月4日)
- ●会員総会に向けて活動報告、決算及び活動計画、予算
- ●規約の一部見直し (特別顧問の取り扱い)
- ●法人化について

47th Meeting(June 4, 1994)

- Review on JVC's fiscal 1994 project and financial report and plan for the fiscal 1995 before the coming annual meeting.
- Partial revision of JVC's rules(Position of Special Advisors)
- •Legal situation for possible incorporation of JVC

■第48回(1994年10月15日)

- ●海外現場からの報告 (南アフリカ、カンボジア、エチオピア、パレスチナ)
- ●ルワンダ問題のへの関わりについて
- ●日本国内への取り組み (全国キャンペーン他)

48th Meeting (October 15, 1994)

- Reports on overseas projects; South África, Cambodia, Ethiopia, & Palestine
- JVC's involvement in Rwanda situation
- JVC's domestic activities such as national campaign

■第49回(1994年12月17日)

- ●エチオピア報告 (マーシャプロジェクトの終了)
- ●代表者ミーティングに向けて
- ●ルワンダ報告
- ●メサイヤコンサート報告

49th Meeting (December 17, 1994)

- Report on Ethiopia project as ending the project in Masha
- Directors' Meeting which will be held in January
- Report on Massiah Concert

■第50回(1995年3月25日)

- ●代表者ミーティングの報告
- ●1995年度活動計画と予算
- ●JVC神奈川について
- ●阪神大震災について
- ●役員ノミネート委員会

50th Meeting (March 25, 1995)

- •Report on the Directors' meeting and JVC's overall goal and principles
- •JVC's 1995 project and financial plans
- JVC Kanagawa Office
- •Nomination for the new executive committee member for the coming fiscal year.

1994年度収支決算書

(FISCAL 1994 FINANCIAL REPORT)

(自1994年4月1日 至1995年3月31日) (from April 1 to March 31)

支 出 の 部 (EXPENDITURES)			収入の部 (INCOME)			
科 目 (ITEM)	金額(¥)	構成比(%)	科 目 (ITEM)	金額(¥)	構成比(%	
《事 業 費 Project Cost》			《寄付金収入 Donations》			
(1)タイ(農村開発ほか)	41,814,954	8.7%	郵政省国際ボランティア貯金	83,302,725	17.4%	
Thailand (Commanity Development)			Voluntary Postal Saving for International Aid			
(2)カンボジア(総合的復興援助)	73,985,121	15.5%	事業指定団体助成金・寄付金 92,548,574		19.3%	
Cambodia (Comprehensive Rehabilitatioal	Program)		Donations from Private Organizations			
(3)ベトナム(職業訓練及び総合復興)	104,097,186	21.7%	事業指定個人募金	56,181,652	11.7%	
Vietnam (Vocational Training & Rehabilitational Program)			Donations from Individuals			
(4)ラオス(生活改善ほか)	34,977,658	7.3%	一般寄付金・募金	54,174,744	11.3%	
Laos(Improvement of Living Condition)			Donations from the Public			
(5)エチオピア(農村開発)	27,242,778	5.7%	小 計 (SUBTOAL)	286,207,695	59.7%	
Ethiopia (Community Development)						
(6)南アフリカ(職業訓練ほか)	85,271,636	17.8%				
South Africa(Vocational Training)						
(7)パレスチナ(環境保全)	15,581,158	3.3%	《補助金収入 Aid Income》	U U		
Parestine (Environmental Preservation)						
(8)グァテマラ(女性による生活改善)	1,453,605	0.3%	国連機関(United Nations)	138,293,182	28.9%	
Guatemala (Living Condition Improvemen	t by Woman)					
(9)在日外国人支援/阪神大震災	5,090,881	1.1%	日本政府(Japanese Goverment)	32,100,000	6.7%	
Foreign Residents in Japan/Hanshin Eart	hquake)					
(10)広報部門	17,013,662	3.6%	小 計 (SUBTOAL)	170,393,182	35.6%	
Public Relations						
小 計 (SUBTOTAL)	406,528,639	84.9%				
《管 理 費 Administration Costs》			《会費収入 Membership Dues》	15,535,092	3.2%	
事務所維持費(Office Rent)	14,847,494	3.1%	《広報収入 Public Relations》	3,355,076	0.7%	
給与(Stuff Salary)	27,374,025	5.7%	《受取利息 Interests》	2,590,178	0.5%	
その他管理費(Other Administration)	30,110,388	6.3%	《雑収入 Others》	1,008,908	0.2%	
小 計 (SUBTOTAL)	72,331,907	15.1%	小 計 (SUBTOTAL)	22,489,254	4.7%	
合 計 (TOTAL)	478,860,546	100.0%				
当期収支差額(Balance)	229,585					
合 計 (TOTAL)	479,090,131		合 計 (TOTAL)	479,090,131	100.0%	

1994年度貸借対照表

(FISICAL 1994 BALANCE SHEET)

(1995年3月31日 As of March 31, 1995)

(借方 Debit)

(貸方 Credit)

科目(ITEM)	金額(Amount¥)	備考(Notes)	科目(ITEM)	金額(Amount¥)	備考(Notes)
資産の部(Assets)		負債の部 (Liabilities)			
現 金	2,991,302		未払金	1,694,000	未払い退職金他
Cash			Accrued Liabilities		Unpaid Severance Indemn
預 金	108,588,269	/さくら銀行、都民銀行他 /	預り金	1,314,355	源泉等預り金
Deposit		Sakura and Tomin Bank	Tax Payable		Withholding Tax
郵便振替口座	4,563,607		前受金	33,250,000	団体寄付金前受
Postal Money Transfer			Payables		Advanced Pay of Contribution
立替金	3,006,873	アフリカ協議会他	減価償却引当金	2,336,828	
Receivables		Africa Japan Forum	Liabilities of Accmulated Depreciation		
短期貸付金	80,000		退職給与引当金	17,945,000	
Short Term Loan			Liabilities of Severance Indemnities		
、収 金	36,503,124	外務省NGO補助金他	Indemnities		
Other Recivables		Government Fund for NGO			
仮 払 金	4,616,626	出張仮払い他	//0+	# A # # DET	100570
Temporary Payment		Travel Expenses and Others	(繰走	越金の部 RETAINED	ASSETS)
タイ勘定	23,068,465	現地事務所現預金	別途積立金	80,000,000	
Current Asset at Thailand		Cash and Deposit	Reserved Funds		
カンボジア勘定	2,734,734	現地事務所現預金	退職給与積立金	14,000,000	
Current Asset at Cambodia		Cash and Deposit	Reserve of Severance Indemnities		
ラオス勘定	2,648,127	現地事務所現預金	減価償却積立金	1,600,000	
Current Asset at Laos		Cash and Deposit	Accmulated Depreciation		
ベトナム勘定	19,467,745	現地事務所現預金	次期繰越金	196,641,737	
Current Asset at Vietnam		Cash and Deposit	Retained surplus		
エチオピア勘定	655,468	現地事務所現預金	うち当期収支差	229,585	
Current Asset at Ethiopia		Cash and Deposit	Balance at end of fiscal '94		
パレスチナ勘定	119,461	現地事務所現預金			
Current Asset at Palestine		Cash and Deposit			
南アフリカ勘定	11,569,112	現地事務所現預金			
Current Asset at South Africa		Cash and Deposit			
神奈川勘定	1,764,136	現地事務所現預金			
Current Asset at Kanagawa		Cash and Deposit			
物	15,459,871	バンコク事務所			
Building		Bangkok Office			
保 証 金	12,345,000	事務所保証金他			
Deposit for Rent		Tokyo Office and Other			
長期貸付金	3,000,000	市民フォーラム2001へ			
Long Term Loan		To Citizens Forum 2001			
退職給与引当資産	14,000,000	都民銀行定期預金			
Asset of Severance Indeminities		Tomin Bank	P		
減価償却引当資産	1,600,000	都民銀行定期預金			
Asset of Accumulated Depreciation		Tomin Bank			
別途積立引当資産	80,000,000	さくら銀行定期預金			
Asset of Provisions	1	Sakura Bank			
合 計(TOTAL)	348,781,920		合 計(TOTAL)	348,781,920	

1995年度収支予算書

(FISCAL 1995 BUDGET)

(1995年4月1日 至1996年3月31日) (from April 1 to March 31)

支出の部(EXPENDITURES)			収入の部(INCOME)			
科 目(ITEM) 金額(¥) 構成比(%)		科 目(ITEM)	金額(¥)	構成比(%		
《事 業 費 Project costs》			《寄付金収入 Donations》			
(1)タイ(農村開発ほか)	39,825,000	8.4%	郵政省国際ボランティア貯金	99,027,000	20.9%	
Thailand (Community Developement)			Voluntary Postal Saving for International Aid			
(2)カンボジア(総合的復興援助)	78,349,000	16.5%	事業指定団体助成金・寄付金	99,961,000	21.1%	
Combodia(Comprenensive Rehabilitati	on Program)		Donations from Saving for International Aid			
(3)ラオス(女性と開発ほか)	36,057,000	7.6%	事業指定個人募金	42,741,000	9.0%	
Laos(Community Development)			Donations from Individuals			
(4)ベトナム(地域開発、職業訓練)	84,238,000	17.7%	一般寄付金・募金	59,819,000	12.6%	
Vietnam(Vocational Training and Comprehe	ensive Rehabilitation P	rogram)	Donations from the Public			
(5)エチオピア(農村開発ほか)	20,569,000	4.3%	小 計(SUBTOTAL)	301,548,000	63.5%	
Ethiopia(Comprehensive Rehabilitation	Program)					
(G)パレスチナ(植林、医療)	23,240,000	4.9%	《補助金収入 Aid Income》			
Palestine (Reforestatino)			国連機関	110,575,000	23.3%	
(7)南アフリカ(職業訓練ほか)	88,377,000	18.6%	United Nations			
South Africa(Vocational Training and Others)		日本政府	35,710,000	7.5%		
(8)中南米(農村開発ほか)	3,978,000	0.8%	Japanese Government(ODA)			
Lat in America (Conavigua Suppurt)			小 計(SUBTOTAL)	146,285,000	30.8%	
(9)広報部門	21,300,000	4.5%				
Public Relations			《会費収入 Membership Dues》	20,000,000	4.2%	
(ID)調査予備費 Research and Other	1,500,000	0.3%	《広報収入 Public Relations》	4,400,000	0.9%	
小 計(SUBTOTAL)	397,433,000	83.7%	《受取利息 Interests》	2,000,000	0.4%	
	*		《雑収入 Others》	500,000	0.1%	
《管理費 Administration》			小 計(SUBTOTAL)	26,900,000	5.7%	
(1)事務所維持費(Office Rent)	14,000,000	2.9%				
(2)給与(Stuff Salary)	25,700,000	5.4%				
(3)その他の東京事務所管理費	32,600,000	6.9%				
Other administrative costs						
小 計(SUBTOTAL)	72,300,000	15.2%				
《予 備 費 Reserved Fund》	5,000,000	1.1%				
小 計(SUBTOTAL)	5,000,000	1.1%				
		100.00	A =L/TOTAL \	474 700 000	100.0%	
合 計(TOTAL)	474,733,000	100.0%	合 計(TOTAL)	474,733,000	100.09	

監査報告書

Independent Auditors' Report

日本国際ボランティアセンター(JVC)の1994年度の決算について、監査の結果、事業は適正に実施され、また収支計算書及び貸借対照表は、一般に公正妥当と認められる会計原則に基づいて作成されていることを認める。

We have audited the financial statement of JVC as of March 1995, and acknowledged that revenue, expenditures for the Fiscal 1994 and the balance sheet were based on generally accepted accounting principles.

1995年6月11日 (June 11、1995)



JVCスタッフ/役員 JVC Staff

JVCスタッフ 94年度 JVC Staff in fiscal 1994

●東京 (TOKYO OFFICE)

林達雄(Tatsuo Hayashi), 熊岡路矢(Michiya Kumaoka)、谷山博史(Hiroshi Taniyama)、岩崎美佐子(Misako Iwasaki)、石丸敏子(Toshiko Ishimaru)、磯田厚子(Atsuko Isoda)、稲見圭(Kei Inami)、稲見由美子(Yumiko Inami)、荻野洋子(Yoko Ogino)、梶野倫子(Noriko Kajino)、金沢まり子(Mariko Kanazawa)北山恭子(Yasuko Kitayama)、柴田久史(Hisashi Sibata)、壽賀一仁(Kazuhito Suga)、谷山由子(Yuko Taniyama)、富安光子(Mitsuko Tomiyasu)、長野広美(Hiromi Nagano)、中島弥生(Yayoi Nakajima)、船川秀夫(Hideo Funakawa)、望月聡子(Satoko Mochizuki))、山口誠史(Masashi Yamaguchi)、渡辺勢津子(Setsuko Watanabe)

●神奈川 (KANAGAWA)

前川昌代(Masayo Maekawa)

●タイ(THAILAND)

杉山桂二(Keiji Sugiyama)、南亜希子(Akiko Minami), Pornpimol Chaiboon, Komain Soongsuman, Thongkham Sumruengram, Kamol Mingmuang, Prasit Inso, Chalaem Kaewchoho, Somrac Surakhaai, Sranit Thanon, Wachara Mantasut, Prisana Narinram, Prateep Lonnarai, Sompop Rattanawalee, Sutthi Netprokhon, Suranan Upakaew, Sakorn Songma, Somrak Chantagup, Teerapong Promporcheunbun

●カンボジア (CAMBODIA)

清水俊弘(Toshihiro Shimizu)、石本由美(Yumi Ishimoto)、馬清(Kiyoshi Uma)、清水由美(Yumi Shimizu)、Ardhendu Chatterjee,公子(Satoko) Chatterjee,塚本智(Satoshi Tsukamoto)、西爱子(Aiko Nishi)、Chum Channareth, Chan Narin, Yeah Polo, Nop Povev

●ラオス (LAOS)

松本悟(Satoru Matsumoto)、赤阪むつみ(Mutsumi Akasaka)、平田保(Tmotsu Hirata)、平田喜代枝(Kiyoe Hirata)、皆見陽子(Yoko Minami)、Maliphet Soukhascum,Phachanh Sundara,Vanhxay Viphongxay,Kulap

Phouivunibone, Phonepasong Sengsuliyavong

●ベトナム (VIETNAM)

伊藤達男(Tatsuo Ito)、伊藤幸子(Sachiko Ito)、岡村達司(Tatsuji Okamura)、 小西司(Tsukasa Konishi)、鈴木彰子(Akiko Suzuki)、常葉勝(Masaru Tokiwa)、 中野周二(Shuji Nakano)、Pham Cong Phin, Ngo Duc Vinh, Mai Khac Tuy, Le Viet Tuong, Ho Thi Phuong Dai, Le Van An, Duong Ngoc Phuong, Dao Thi Tu Nga, Huynh Thi Ngoc Tuyet, Tran Thi Dua

●エチオピア (ETHIOPIA)

北詰秋乃(Akino Kitayama)、高田昌幸(Masayiki Takada)、Solomon Eshete, Ali Sirai, Alemayehu Abebe

●南アフリカ (SOUTH AFRICA)

津山直子(Naoko Tsuyama)、高梨直樹(Naoki Takanashi)、日方圭子(Keiko Hikata)、Alain Mandla Yende,Nomusa Mirriam Mufamadi

●パレスチナ (PALESTINE)

吉田進(Susumu Yoshida)

●有給スタッフ (The number of paid srtuff) : 国内 (in Japan) 23名 海外 (Abroad) 68名

(うち派遣員 27人: 27 Japanese)

代表 熊岡路矢 (President: Michiya Kumaoka) 事務局長 谷山博史 (Secretary General:Hiroshi Taniyama)

Executive Comittee members in fiscal 1995 and 1996

●執行委員 (Executive Committee Members) アイネス・バスカビル Inez M Baskerville

JVCメサイヤコンサート実行委員会

Concert Messiah Chirperson

足立房夫 Fusao Adachi 日産労連専務理事

Executive Managing Director, Lic Operations Division Federation of All Nissan and General Workers' Union

岩崎駿介 Shunsuke Iwasaki

筑波大学助教授、市民フォーラム2001事務局長、JVC特別顧問 Professor,Institute of Socio-economic Planning Tsukuba University(City Planning),Executive Director, Peoples Forum 2001 熊岡路矢 Michiya Kumaoka 日本国際ボランティアセンター代表 President, Japan International Volunteer Center

須田春海 Harumi Suda 市民運動全国センター世話人 Shimin Undou Zenkoku Center

多賀秀敏 Hidetoshi Taga 新潟大学教授 Professor, Faculty of Law in Niigata University

立山良司 Ryoji Tateyama 中東経済研究所研究主幹 Chief Economist, The Japanese Institute of Middle Eastern Economies

田中 優 Yuu Tanaka グループK I K I Group KIKI

谷山博史 Hiroshi Taniyama 日本国際ボランティアセンター事務局長 Secretary General, Japan International Volunteer Center

林 達雄 Tatsuo Hayashi 日本国際ボランティアセンター前代表、医師 Former President, Japan International Volunteer Center, Doctor

林 陽子 Yoko Hayashi 自由人権協会理事、弁護士 Attorney-at-Law, Koga & Partners

船橋邦子 Kuniko Funabashi 日本女性学会代表幹事、佐賀女性センター館長 Cordinater, Asian Women's Conference Network,Director, Saga Prefectural Women's Center

星野昌子 Masako Hoshino かながわ女性センター館長、JVC特別顧問 Director General, Kanagawa Women's Center Special Advisor, Japan International Volunteer Center

若井 晋 Susumu Wakai 元JOCS総主事 Former General Secretary, The Japan Overseas Christian Medical Cooperative Service (IOCS)

磯田厚子 Atsuko Isoda 女子栄養大学助教授、JVC Associate Proffessor Kagawa Nutrition University Japan International Volunteer Center

荻村哲朗 Tetsuro Ogimura 神奈川国際交流協会 Kanagawa International Association

嶋 紀晶 Toshiaki Shima ワラボラ Executive Director,Walavola

原 毅彦 Takehiko Hara 信州大学人文学部助教授 Associate Professor, Faculty of Arts Shinsyu University

平野克己 Katsumi Hirano アジア経済研究所 Institute of Developing Economies (IDE)

横川芳江 Yoshie Yokokawa グローバル市民基金「地球の木」 Representative, Global People's Fundation 'Earth Tree'

●監査委員(Auditor) 斉藤 誠 Makoto Saito 熱帯雨林保護法律家リーグ、弁護士

鷲津邦男 Kunio Washizu モラロジー研究所 The Institute of Moralogy

Attorney at law

会員数 2,030名 (1995年 6 月30日現在) The Number of JVC members is 2,030 as of end of June 1995.

支援団体 Supporting Organizations

《民間団体・グループ》

明日の会

明るい社会づくり運動、神奈川

(株) アプコ

Eコープ地球環境委員会

(財) イオングループ環境財団

犬養道子「みどり一本|募金

犬養道子女史の難民活動を支える市民の会

浦幌町立診療所

栄光学園母の会

太田慈光会

大矢産業 (有)

香川県国際交流協会

香川国際ボランティアセンター

神奈川民際協力の集い実行委員会

からし種

川崎中ロータリークラブ

川崎中原ロータリークラブ

カンボジアスタディツアーグループ

カンボジアを支援する広島市民の会

キリスト同信会

緊急コンサート実行委員会 (調布)

グループAISA

グループ・カンガルー

グローバル市民基金「地球の木」

経団連「自然保護基金」

広友会

(財) 国際開発救援財団

国際電信電話 (株)

国分寺地区「大地の子」委員会

護憲連合ルワンダ救援

コンパック (株)

使用済みテレカ・カンボジア基金

真如苑

JVCカレンダー事務局

JVC神奈川ベトナムバザー

JVC山形

JVC九州ネットワーク

ジャパンタイムズ

JUKI (株)

净土宗東京教区青年会

浄土真宗本願寺派たすけあい募金

净土真宗本願寺派高岡教区寺族青年会

食品労協

城陽市議グループ

JOFIC(世界の子どもたちと手をつなぐ会)

新日本管財 (株) 互助会

生活クラブ生活協同組合

聖ヨゼフ老人ホーム

全日本自治団体労働組合(自治労)

創価学会青年平和会議

創価学会西京21世紀青年委員会

地球市民奨学金 長谷寺仏教婦人会 調布WAの会 天寿荘・特別養護老人ホーム

電力総連

東京糸卸親和会

東京衛生学園専門学校

東京グリーンウォーク実行委員会

(社) 東京都八南歯科医師会

東京西新井ロータリークラブ 東京柳橋ライオンズクラブ

豊橋ライオンズクラブ

新潟国際ボランティアセンター(NVC)

日産労連リック事業部

日本プリンティングアカデミー

日本青年会議所四国地区協議会

(財) 庭野平和財団

ハオ技術コンサルタント

ハローKDD

ピースボート

常陸太田市社会福祉協議会

ファイバーリサイクルネットワーク

(株) ホッタ

微笑みをあなたにチャリティー講演会

毎日新聞社会事業団

まだあ・テレサの会

松山かすりウオーク実行委員会

丸善(株)日本橋店

三瀧寺

南気仙沼小学校JRC委員会

メサイヤベネフィットコンサート実行委員会

モービル石油(株)

モラロジー国際救援運動推進委員会

(財) 安田火災記念財団

横浜雙葉高等学校生徒会

ラオス子どもの記念日基金キャンペーン

ラオス古ハガキ委員会

立正佼成会一食平和基金

(財) りゅうぎん国際化振興財団

《日本国内の公的機関》

日本政府(外務省)

郵政省国際ボランティア貯金

(財) 神奈川県国際交流協会

環境事業団

(社) 国際農林業協力協会

(社) 国際建設技術協会

《国連機関》

国際労働機構 (ILO)

国連ボランティア (UNV)

国際連合開発計画 (UNDP)

国際連合難民高等弁務官事務所(UNHCR)

(注:100,000円以上寄付・助成していただいた団体を掲載しました。) Note: Organizations which contributed and aided 100,000 yen JVC or more appear in this page.

日本国際ボランティアセンター事務所 JVC OFFICE

■JVC 東京事務所

〒110 東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル 6 階 電話 03-3834-2388 FAX 03-3835-0519

TOKYO OFFICE

Maruko Bldg.6F 1-20-6 Higashi Ueno Taito-ku,Tokyo 110 tel: (81) 3-3834-2388 fax: (81)3-3835-0519

■JVC タイ・バンコク事務所

(JVC THAILAND · Bangkok Office) 4/96 Soi Wong-sut Phaholyothin Rd, Bangkhen Bangkok 10220,THAILAND tel&fax: (66)2-552-8153

■JVC カンボジア・プノンペン事務所

(JVC CAMBODIA · Phnom Penh Office) House #35, Street 169 Sangkat Meathapheap , Khan 7 MAKHARA Phnom Penh, CAMBODIA tel:(855)18-810900 tel& fax: (855)23-66385 mail:P.O.Box 526, Phnom Penh, CAMBODIA

■JVC ラオス・ビエンチャン事務所

(JVC LAOS · Vientiane Office) #342 Ban Nazay, Mouang Saysettha Vientiane, LAO P.D.R tel&fax: (856)21-413083 mail: P.O Box 2940, Vientiane, LAO P.D.R

■JVC ベトナム・ベンチェ事務所

(JVC VIETNAM Ben Tre Office) Department of Labour 65 Nguyen Dinh Chieu, Ben Tre, Vietnam tel:(84)75-22880 fax:(84)75-22853

■JVC エチオピア・アジスアベバ事務所

(JVC ETHIOPIA Addis Ababa Office) P.O. Box 6941 Addis Ababa, ETHIOPIA tel. & fax.(251)1-614555

■JVC 南アフリカ・ヨハネスブルグ事務所

(JVC SOUTH AFRICA · Johannesburg Office)
12F Devonshire House
49 Jorissen Street
Braamfontein 2001, SOUTH AFRICA
tel: (27)11-403-7848
fax: (27)11-403-2312
mail: P.O. Box 31618, Braamfontein 2017,

■JVCパレスチナ

(JVC PALESTINE) c/o Mahmoud Khirbatli, KFAR 'AQAB', Jerusalem via ISRAEL tel.972-2-854-675 fax.972-2-852-767

発 行 日本国際ボランティアセンター

〒110 東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル6F TEL.03-3834-2388

FAX.03-3835-0519

デザイン (株)薬師神デザイン研究所 印 刷 (株)ベスト・プリンティング